第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(60)　　(平成25年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5　白楽ｺﾐｭﾆﾃｨﾌﾟﾗｻﾞ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647　菅田町ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞﾙ1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3　まるあびる1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12　ｽｶｲﾋﾞﾙ21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107　ﾗｲﾌ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鵜養医院	南区宮元町3-55	731-2308
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34　森ﾋﾞﾙ1F	720-6008
あずま医院	南区清水ケ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30　ｻﾝﾗｲｽﾞ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ケ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ケ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ケ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
左近山クリニック	旭区左近山1186-6左近山団地7-14-101	351-6541
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
冨野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区釜利谷東2-1-1　ﾊﾞｻﾞｱﾙ金沢文庫4F	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1　大倉山ﾊｲﾑ1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200　菊名ﾚｼﾞﾃﾞﾝｼｱﾌﾟﾗｻﾞ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2　ﾎｰﾒｽﾄﾌﾟﾗｻﾞ十日市場西館101	989-6388
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
岡本診療所	青葉区青葉台1-29-5	981-9541
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45　沖商事ﾋﾞﾙ102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14　ﾍﾞﾙﾃﾞｾｿﾞﾝ1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
川上診療所	戸塚区川上町359	822-5074
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1　ｹｱﾊｳｽゆうあい4FB	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
大野内科医院	栄区本郷台3-1-6	896-0500
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉町2812	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14　ｱｲｴｲﾁﾋﾞﾙⅡ　1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3　ｸﾞﾗﾝﾃﾞｭｰﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1　三ツ境ﾗｲﾌB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(92)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
田中小児科医院	鶴見区東寺尾2-15-34	581-2880
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
小児科佐久間医院	鶴見区馬場4-31-15	581-2604
山崎医院	鶴見区東寺尾6-32-15	581-4003
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央4-43-6	506-3657
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4　ｵﾙﾄﾖｺﾊﾏﾋﾞｼﾞﾈｽｾﾝﾀｰ1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町9-2	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7　東神奈川ｲｰｽﾄｱｰｸﾋﾞﾙ1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2　小菅医療ﾋﾞﾙ4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
弘明クリニック	南区通町4-84　ﾒﾙﾍﾞｲﾕ弘明寺2F	721-3611

医療機関名	所在地	電話番号
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
大川小児科医院	南区万世町2-27	231-4443
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1　いずみﾌﾟﾗｻﾞ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科・アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 ｶﾐｵ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ケ谷区星川2-4-1　星川SFﾋﾞﾙ3F	336-2260
おざき小児科	保土ケ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ケ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ケ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ケ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ケ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58　大洋ﾋﾞﾙ2F	361-0212
サンクリニック	旭区柏町97-8	366-6822
川島医院	旭区上白根町891　西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区西町6-39	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11　高野第2ﾋﾞﾙ2F	785-1152
江原小児科医院	金沢区並木1-14-2	773-8533
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1　長谷川ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19　福島ﾋﾞﾙ1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区北新横浜1-2-3　三橋ﾋﾞﾙ1F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26　MKﾊｲﾑ1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22　ﾅﾋﾞｳｽ大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3　ﾀﾞｲｱﾊﾟﾚｽ鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1　土井ﾋﾞﾙ1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2　あざみ野ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126

医療機関名	所在地	電話番号
武沼小児科医院	青葉区青葉台1-13-13	981-6122
あざがみ小児クリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ﾗｲﾑﾗｲﾄ松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 ﾄﾞﾑｽ有本101	901-6870
あかねファミリークリニック	青葉区あかね台1-17-38	985-6607
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ケ崎南5-1-10 ﾉｰﾌﾞﾙ茅ケ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
都筑メディカルクリニック	都筑区荏田南1-12-16	943-8801
こどもの木クリニック	都筑区荏田南3-1-7	947-1888
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 ﾏｻｶﾋﾞﾙ1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2354
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
東戸塚小児クリニック	戸塚区品濃町535-2 ﾆｭｰｼﾃｨ東戸塚ﾀﾜｰｽﾞｼﾃｨ1st302	825-1799
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 ｱｲｴｲﾁﾋﾞﾙⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
緑園こどもクリニック	泉区緑園2-1-6-201	810-0555
はっとり小児科	泉区和泉町2860-1 立場AMANOﾋﾞﾙ2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 ｶｻ･ﾃﾞ･ﾊﾟﾃｨｵ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 ｻﾆｰﾊｲﾂ三ツ境1F	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわﾒﾃﾞｨｶﾙｳﾞｨﾚｯｼﾞ内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点（19）

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 ﾄﾐﾔﾋﾞﾙ4F	502-0222
安田眼科医院	神奈川区反町1-6-12 ﾘｷﾍﾘｱﾝｻｽ1F	313-2022
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ｽﾄｰｸﾋﾞﾙ秋山1F	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ﾐｵｶM202	842-0380
小野江眼科	保土ケ谷区帷子町1-12	335-2171
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSﾋﾞﾙ2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ｳﾞｨﾗ綱島ﾋﾞﾙ1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ﾋﾞﾙ1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 ｱﾋﾟﾀ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10　第3ﾌｼﾞﾓﾄﾋﾞﾙ2F	985-3719
仲町台駅前眼科クリニック	都筑区仲町台1-7-12　ﾌﾞﾘｯｼﾞ二番館2F	942-4730
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2　緑園都市ﾗｲﾌ2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3　ｸﾞﾗﾝﾃﾞｭｰﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	302-6337

性感染症定点(27)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚・泌尿器科医院	西区北幸1-11-5　相鉄KSﾋﾞﾙ2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1　ｿﾌｨｱﾖｺﾊﾏ1F	263-0820
公平泌尿器科医院	南区井土ケ谷下町213　第2江洋ﾋﾞﾙ4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2　ﾙｽ･ﾃﾞ･ﾙﾅ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ケ谷区帷子町1-30-1 ｸﾎﾞﾀﾋﾞﾙ2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ケ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3　第7ﾊﾟﾚｽ桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1　ﾌﾟﾗﾗSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
片桐レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31　ﾋﾙｽﾞ･ｶﾓ1F	545-5251
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖ローザクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24　ｱﾋﾞﾃﾉｰﾙ3C	914-6355
山本内科・タワーズ皮膚科	戸塚区品濃町535-2　中央街区D棟306	825-5871
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19　斉藤ﾋﾞﾙ2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27　ﾈｸｽﾄｱｲ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29　瀬谷ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院	保土ケ谷区岡沢町56	331-1961

医療機関名	所在地	電話番号
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科 （小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科 （眼科）	中区伊勢佐木町6-143-2 ITﾋﾞﾙ1F	261-1103
片山こどもクリニック （小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｱﾙﾀﾞ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院 （基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院 （基幹）	保土ケ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科 （小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
石井内科医院 （内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック （小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科 （小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 ﾄﾞﾑｽ有本101	901-6870
はやし小児科医院 （小児科）	青葉区松風台13-5 ﾗｲﾑﾗｲﾄ松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院 （基幹）	青葉区藤が丘1-30	974-8143
内科小児科むかひら医院 （内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
中条小児科医院 （小児科）	栄区上之町8-7	892-2583
瀬谷こどもクリニック （小児科）	瀬谷区中央1-10 ｶｻ･ﾃﾞ･ﾊﾟﾃｨｵ2F	304-0045
清水小児科 （小児科）	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわﾒﾃﾞｨｶﾙｳﾞｨﾚｯｼﾞ内	360-9191

疑似症定点(単独は56定点、 内科定点60小児科定点92を加え208定点)

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 ｻﾝﾜｲｽﾞﾋﾞﾙ3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 ﾌｰｶﾞ3ﾋﾞﾙ505号室	576-3370
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ﾋﾞﾙ1F	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
井関医院	神奈川区栄町6-1 ﾖｺﾊﾏﾎﾟｰﾄｻｲﾄﾞﾛｱ弐番館1F	451-6864
ななしまクリニック	神奈川区七島町161-5	401-9884
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
三ツ沢ハイタウンクリニック	西区宮ケ谷25-2 三ツ沢ﾊｲﾀｳﾝ1-110	312-0290
いちの内科クリニック	西区平沼1-2-12 甘糟平沼ﾋﾞﾙ2F	314-1125
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ッ川内科クリニック	南区六ツ川1-873-3	306-8026
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ﾋﾞﾙ3F	841-0133
栗原医院	港南区大久保2-7-19	842-9066

医療機関名	所在地	電話番号
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
新桜クリニック	保土ケ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ケ谷区川島町1404　くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ケ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4　希望が丘ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22　三葉ﾋﾞﾙ	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9　ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ2F	785-3912
とみおか診療所	金沢区富岡東6-1-3	773-7213
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3　斉木ﾋﾞﾙ2F	773-2212
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
大倉山記念病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2　第7吉田ﾋﾞﾙ2・3F	546-8611
日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16　日吉教養ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町5-4-1	561-9300
佐々木消化器科内科	港北区綱島東2-12-19　福島ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ3F	545-4588
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10　ｱﾓﾝｸｰﾙ1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ケ尾町1167-1　ﾗﾊﾞｰﾌﾞﾙ昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11　ｻﾝｻｰﾗあざみ野ﾋﾞﾙ3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16　TMIﾋﾞﾙ　1103	910-5033
山口医院	都筑区中川1-5-9	912-2188
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15　横浜青葉ｸﾘﾆｯｸｾﾝﾀｰ2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ケ崎南3-1-60　ｻﾞ・ｸﾞﾚｲｽ2F	945-1112
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5　KAWARA1F	869-0311
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8　土屋ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ1F	865-6666
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46　踊場ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ2F	861-2511
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉町3839-1　ﾌｫﾚｽﾄいずみ中央	806-5067

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制　　定　平成 12 年 11 月 27 日衛感第 340 号（局長決裁）
最近改正　平成 25 年 10 月 8 日健健安第 1175 号(局長決裁)

第１　趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第２　対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

１　全数把握の対象

一類感染症

(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病及び(7)ラッサ熱

二類感染症

(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属ＳＡＲＳコロナウイルスであるものに限る）及び(12)鳥インフルエンザ(H5N1)

三類感染症

(13)コレラ、(14)細菌性赤痢、(15)腸管出血性大腸菌感染症、(16)腸チフス及び(17)パラチフス

四類感染症

(18)Ｅ型肝炎、(19)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、(20)Ａ型肝炎、(21)エキノコックス症、(22)黄熱、(23)オウム病、(24)オムスク出血熱、(25)回帰熱、(26)キャサヌル森林病、(27)Ｑ熱、(28)狂犬病、(29)コクシジオイデス症、(30)サル痘、(31)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）(32)腎症候性出血熱、(33)西部ウマ脳炎、(34)ダニ媒介脳炎、(35)炭疽、(36)チクングニア熱、(37)つつが虫病、(38)デング熱、(39)東部ウマ脳炎、(40)鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１及びH7N9を除く）、(41)ニパウイルス感染症、(42)日本紅斑熱、(43)日本脳炎、(44)ハンタウイルス肺症候群、(45)Ｂウイルス病、(46) 鼻疽、(47)ブルセラ症、(48)ベネズエラウマ脳炎、(49)ヘンドラウイルス感染症、(50)発しんチフス、(51)ボツリヌス症、(52)マラリア、(53)野兎病、(54)ライム病、(55)リッサウイルス感染症、(56)リフトバレー熱、(57)類鼻疽、(58)レジオネラ症、(59)レプトスピラ症、(60)ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(61)アメーバ赤痢、(62)ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く）、(63)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）、(64)クリプトスポリジウム症、(65)クロイツフェルト・ヤコブ病、(66)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(67)後天性免疫不全症候群、(68)ジアルジア症、(69)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(70)侵襲性髄膜炎菌感染症、(71)侵襲性肺炎球菌感染症、(72)先天性風しん症候群、(73)梅毒、(74)破傷風、
(75)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(76)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(77)風しん、(78)麻しん

新型インフルエンザ等感染症

(105)新型インフルエンザ、(106)再興型インフルエンザ

指定感染症

(107)鳥インフルエンザ（H7N9）

2　定点把握の対象

五類感染症（定点）

(79)ＲＳウイルス感染症、(80)咽頭結膜熱、(81)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(82)感染性胃腸炎、(83)水痘、(84)手足口病、(85)伝染性紅斑、(86)突発性発しん、(87)百日咳、(88)ヘルパンギーナ、(89)流行性耳下腺炎、(90)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）、(91)急性出血性結膜炎、(92)流行性角結膜炎、(93)性器クラミジア感染症、(94)性器ヘルペスウイルス感染症、(95)尖圭コンジローマ、(96)淋菌感染症、(97)クラミジア肺炎（オウム病を除く）、(98)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）、(99)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(100)マイコプラズマ肺炎、(101)無菌性髄膜炎、(102)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(103)薬剤耐性アシネトバクター感染症、(104)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第 14 条第１項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(108)摂氏３８度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）若しくは(109)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(12)鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）

第３　実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。)、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第４　実施体制の整備

１　横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

２　指定届出機関（定点）

健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

３　横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

第５　事業の実施

１　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

（１）　調査単位及び実施方法

ア　診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ　福祉保健センター

（ア）　当該届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

また、当該患者（四類感染症については、第２の(52)を除く。また、全数把握対象の五類感染症については、第２の(61)、(63)、(65)、(66)、(67)、(69)、(70)、(71)、

(72)、(74)、(75)、(76)、(77)又は(78)とする。）を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生研究所への提供について、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体)」を添付して依頼する。

（イ） 福祉保健センターは、オ(ア)により衛生研究所から検体の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（医療機関あて検査結果通知用)」により速やかに送付する。

ウ 健康福祉局

（ア） 健康福祉局は、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、内容の点検等を行ったうえで､感染症情報センターと連絡もれがないか等､確認する。

（イ） 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

エ 感染症情報センター

（ア） 感染症情報センターは、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。

（イ） 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報（検査情報を含む。）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

オ 衛生研究所

（ア） 衛生研究所は、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体)」及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（福祉保健センターあて結果通知用)」により福祉保健センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。

（イ） 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

（ウ） 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

２ 定点把握対象の五類感染症

（１） 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

（２）　定点の選定

ア　患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

イ　病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

（３）　調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

（４）　実施方法

ア　患者定点

（ア）　患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において､国が定める報告基準により､患者発生状況の把握を行う。

（イ）　２の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

（ウ）　(イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ　病原体定点

（ア）　病原体定点として選定された医療機関は、国が定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。

（イ）　病原体定点で採取された検体は、別記様式「病原体定点からの検査依頼書」を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

ウ　福祉保健センター

福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の３日までに、感染症情報センターへ送付する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。

エ　健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

オ　感染症情報センター

（ア）　感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、感染症発生動向調査システムに入力する。

（イ）　感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ　衛生研究所

（ア）　衛生研究所は、イ(イ)により別記様式「病原体定点からの検査依頼書」及び検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式「病原体定点からの検査依頼書（医療機関あて検査結果通知用)」により病原体定点に通知するとともに、感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。

（イ）　検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

（ウ）　衛生研究所は、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

３　法第１４条第１項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

（１）　対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

（２）　疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から疑似症定点を選定する。

（３）　実施方法

ア　疑似症定点

（ア）　疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。

（イ）　（２)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施する。

（ウ）（イ）の届出に当たっては法施行規則第７条に従い行う。

イ　健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ　感染症情報センター

（ア）　感染症情報センターは、疑似症定点において症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局へ報告する。

（イ）　感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

４　オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

（１）　福祉保健センター

鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

（２）　感染症情報センター

ア　感染症情報センターは、（１）により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ　医療機関より検体が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

（３）　衛生研究所

ア　衛生研究所は、検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ　鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあっては、法施行規則第９条第２項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。検体を送付する場合においては、（２）イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第６　その他

本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

なお、感染症発生動向調査事業については、本要綱に基づき実施することとし、結核発生動向調査事業については、従来の「横浜市結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき実施することとする。

附　則

（施行期日）

１　この実施要綱は、平成 15 年 11 月５日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 18 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 18 年６月 12 日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 20 年１月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 20 年５月 12 日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 23 年２月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 25 年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

別記様式一覧表

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（４枚複写式）

（医療機関控）

（福祉保健センター控）

（福祉保健センターあて検査結果通知用）

（医療機関あて検査結果通知用）

病原体定点からの検査依頼書（３枚複写式）

（医療機関控）

（衛生研究所控）

（医療機関あて検査結果通知用）

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正　平成 23 年５月 24 日　健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第１条　横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第３条　委員会は、委員６人以上 10 人以下をもって組織する。

２　委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

(1) 学識経験者

(2) 横浜市医師会を代表する者

(3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第４条　委員の任期は、３年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

２　委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

３　委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第６条　委員会の会議は、委員長が毎月１回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第７条　委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

（関係者の出席等）

第８条　委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第９条　委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

（その他）

第 10 条　本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 14 年１月１日から施行する。

（経過措置）

２　この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附　則

この要綱は、平成 18 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 23 年５月 24 日から施行する。

平成 25 年 1 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 1 月 31 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザ警報が発令されました。**
- **風しんの流行が継続しています。**
- **マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。**

全数把握の対象

1 **細菌性赤痢**:1 件の flexneri(B 群)の報告がありました。インドネシアでの経口感染が推定されています。

2 **腸管出血性大腸菌感染症**:1 件(無症状病原体保有者 O157 VT2)の報告がありました。職場の定期検便で明らかになりましたが、周囲の有症状や感染者はいませんでした。

3 **腸チフス**:1 件の報告がありました。ミャンマーでの感染が推定されています。最近の国内報告例のほとんどはアジア諸国等の海外からの輸入事例で、海外旅行が日常化したことにより増加傾向にあります。

4 **デング熱**:1 件の報告がありました。渡航先(カンボジア)での、蚊からの感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外(アジア諸国等)での感染です。

5 **レジオネラ症**:1 件の肺炎型の報告がありました。感染原因は現在調査中です。

6 **レプトスピラ症**:1 件の報告がありました。国内での水系感染が推定されていますが、詳細な感染経路は現在調査中です。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの保菌動物(ネズミ等)の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接触れる可能性のある労働などでの感染が報告されています。

7 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。うち 2 件は国内での感染が推定され、そのうち 1 件は性的接触による感染、もう 1 件は感染経路不明でした。残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。

8 **急性脳炎**:40 歳代の報告が 1 件ありました。病原体、原因等不明です。

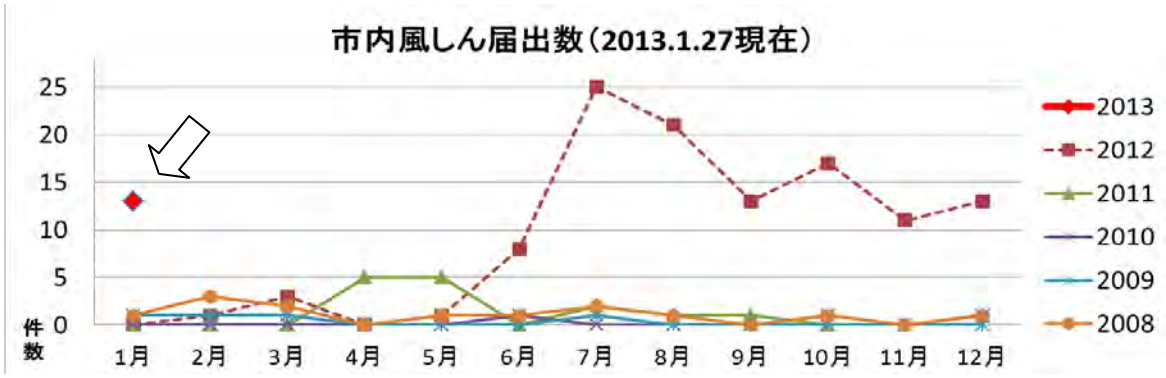
9 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:1 件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

10 **梅毒**:1 件の早期顕症梅毒 I 期の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

11 **風しん**:13 件(男性 10 件、女性 3 件)の報告がありました。依然として男性の報告が多い状況ですが、女性(すべて 50 歳代)の 3 件はいずれも予防接種歴が確認できませんでした。現在、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などで流行が継続しており、横浜市でも報告が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言
http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf

◆横浜市感染症臨時情報:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/



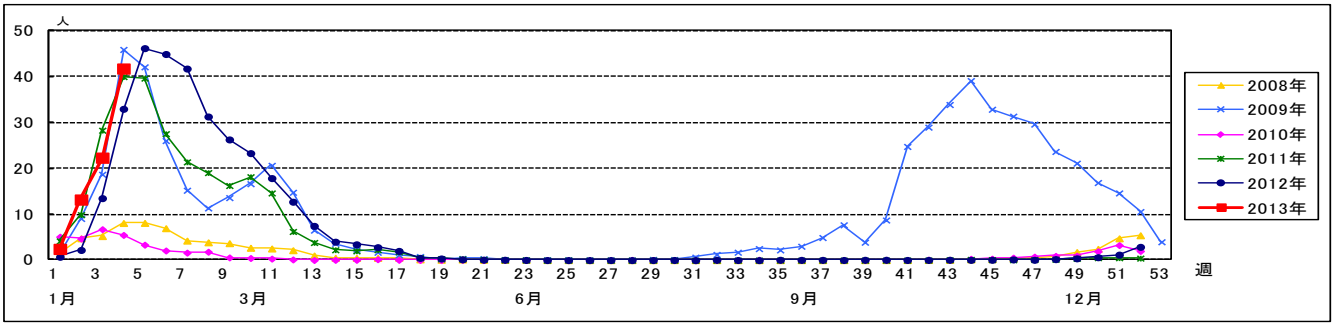
12 **麻しん**:30 歳代男性(ワクチン接種歴 1 回(1 歳時))の臨床診断例の報告が 1 件ありました。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握の対象

平成 25 年　週－月日対照表	
第 52 週	12 月 24～30 日
第 1 週	12 月 31～1 月 6 日
第 2 週	1 月 7～13 日
第 3 週	1 月 14～20 日
第 4 週	1 月 21～27 日

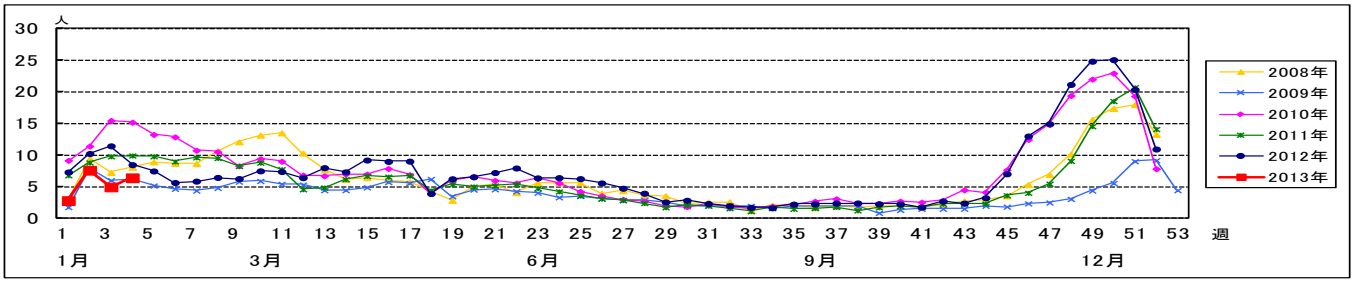
1　**インフルエンザ**:第 4 週に市全体で定点あたり 41.80 となり、警報が発令されました。第 4 週での警報発令は昨シーズンと同時期です。学級閉鎖も急激に増加しています。第 4 週の迅速キットの結果は A 型 99.0%、B 型 1.0%、AB 型ともに陽性 0.1%でした。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果では、AH3 亜型 95.5%、AH1pdm09 型 2.3%、B 型(山形系統) 2.3%と、AH3 亜型がほとんどを占めており、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたインフルエンザウイルスについて国立感染症研究所でワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を行ったところ、AH3 亜型株(A/YOKOHAMA/159/2012)では 2 管差、AH1pdm09 型株(A/YOKOHAMA/154/2012)で 1 管差、B 型(山形系統)株(B/YOKOHAMA/82/2012)で 2 管差でした。なお、一般的に HI 価 4 倍(2 管差)以内でワクチン株と類似しているといわれています。また、同じく国立感染症研究所で実施された薬剤感受性試験では、市内で検出された AH3 亜型株(A/YOKOHAMA/159/2012)、B 型(山形系統)株(B/YOKOHAMA/82/2012)とも、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対しての感受性低下は認めませんでした。

◆インフルエンザ予防チラシ(横浜市)　◆インフルエンザ臨時情報



2　**感染性胃腸炎**:昨年第 50 週に定点あたり 25.11 と流行しましたが、第 4 週では 6.48 と落ち着いています。ただ、施設内等での集団発生は現在も報告されているため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf
◆横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報 http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/



3　**性感染症**:12 月は、性器クラミジア感染症は男性が 19 件、女性が 12 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 11 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 10 件、女性が 0 件でした。

4　**基幹定点週報**:全国では<u>マイコプラズマ肺炎</u>が定点あたり 1.00 を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に 1.00 を下回りました。横浜市でも第 52 週 2.00、第 1 週 0.00、第 2 週 0.00、第 3 週 5.00、第 4 週 1.33 と、先月報告分に比べやや減少傾向です。ただ、全国的にも以前のベースラインの 0.40 前後の状態より多い状況であり、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5　**基幹定点月報**:12 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 13 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 2 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 2 月 28 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザが警報終息基準値を下回っています。**
- **風しんの流行が持続しています。**
- **マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。**

全数把握の対象

1 **腸管出血性大腸菌感染症**:3 件(O157 VT1VT2 2 件、O157 H7VT1VT2(無症状病原体保有者)1 件)の報告がありました。うち 2 件は同一家族での症例でしたが、感染原因は調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf

2 **デング熱**:1 件の報告がありました。渡航先(フィリピン)での、蚊からの感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外(アジア諸国等)での感染です。

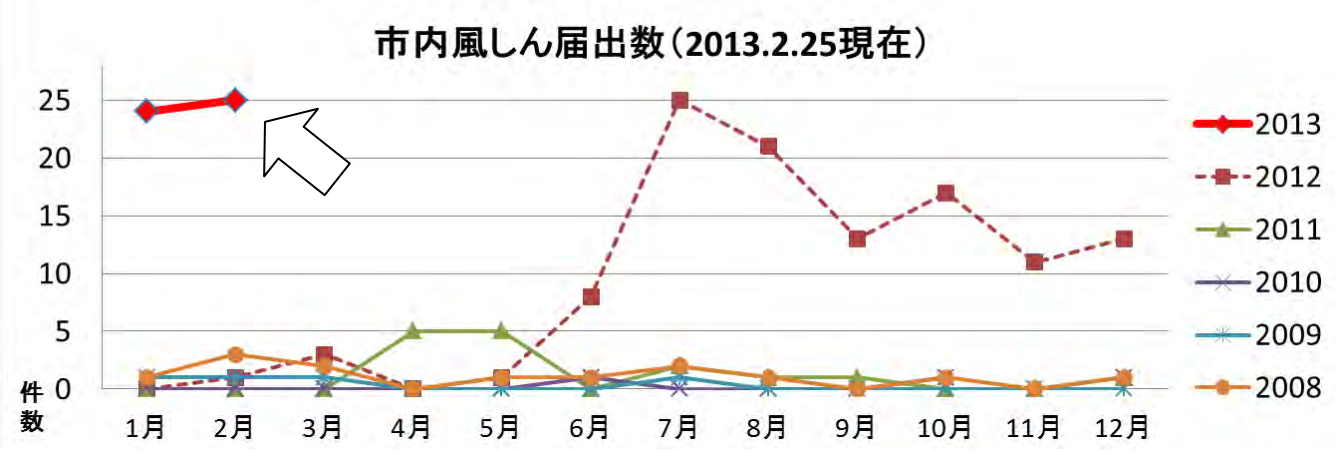
3 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症 5 件の報告がありました。そのうち 2 件は異性間性的接触(どちらも国内での感染)による感染、もう 2 件は経口感染(1 件はフィリピン、もう 1 件は国内での感染)で、残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。

4 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:1 件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

5 **風しん**:25 件(男性 21 件、女性 4 件)の報告がありました。女性 1 件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。昨年 6 月以降風しんの流行が続いており、今年に入っても多くの報告が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言
http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf

◆横浜市感染症臨時情報:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

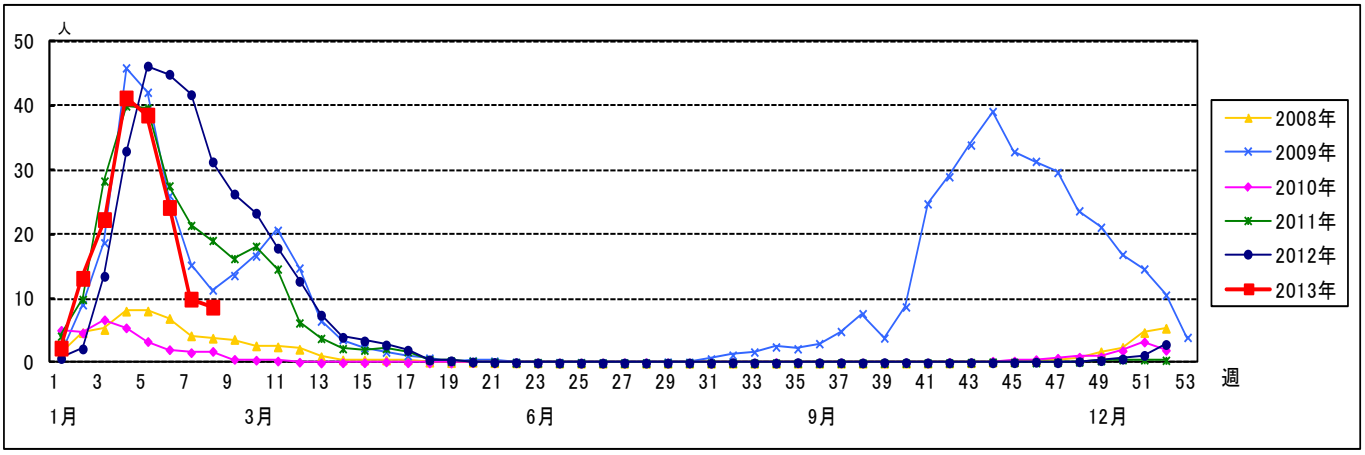


定点把握の対象

平成 25 年　週－月日対照表	
第 5 週	1 月 28 日～2 月 3 日
第 6 週	2 月 4～10 日
第 7 週	2 月 11～17 日
第 8 週	2 月 18～24 日

1　**インフルエンザ**：第 8 週に市全体で定点あたり 8.72 となり、警報終息基準値（10.00）を下回りました。ただ、区別では現在も警報レベル、注意報レベルの区があり、注意が必要です。第 8 週の迅速キットの結果は A 型 89.8%、B 型 10.2%、AB 型ともに陽性 0.0%でした。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果（2 月 27 日現在）では、AH3 亜型が 93.7%とほとんどを占めており、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたインフルエンザウイルスについて国立感染症研究所でワクチン株との抗原性解析（HI 試験）を行ったところ、AH3 亜型株、AH1pdm09 型株、B 型（山形系統）株ではすべて 2 管差以内でした。なお、一般的に HI 価 4 倍（2 管差）以内でワクチン株と類似しているといわれています。また、同じく国立感染症研究所で実施された薬剤感受性試験では、市内で検出された AH3 亜型株、AH1pdm09 型株、B 型（山形系統）株とも、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対しての感受性低下は認めませんでした（2 月 25 日現在）。

◆インフルエンザ予防チラシ（横浜市）　◆インフルエンザ臨時情報



2　**感染性胃腸炎**：第 8 週では 6.12 と落ち着いていますが、施設内等での集団発生は現在も報告されているため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所：次亜塩素酸の詳しい使用方法 http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf

◆横浜市衛生研究所：横浜市感染症臨時情報 http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

3　**性感染症**：1 月は、性器クラミジア感染症は男性が 27 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 9 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 17 件、女性が 2 件でした。

4　**基幹定点週報**：全国では**マイコプラズマ肺炎**が定点あたり 1.00 を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に 1.00 を下回り、第 8 週では 0.49 と減少傾向です。横浜市でも第 5 週 1.33、第 6 週 1.00、第 7 週 1.00、第 8 週 0.00、とやや落ち着いてきましたが、まだ多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5　**基幹定点月報**：1 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 18 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件が報告されました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 3 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 3 月 28 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- 風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

3 月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	2 件
レジオネラ症	1 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	1 件	風しん	50 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件	麻しん	1 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**:O157 VT2(無症状病原体保有者)1 件の報告がありました。就職前健康診断で診断されましたが、周囲に有症状者等は認められませんでした。
◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf

2 **レジオネラ症**:1 件の肺炎型の報告がありました。感染経路等について現在調査中です。

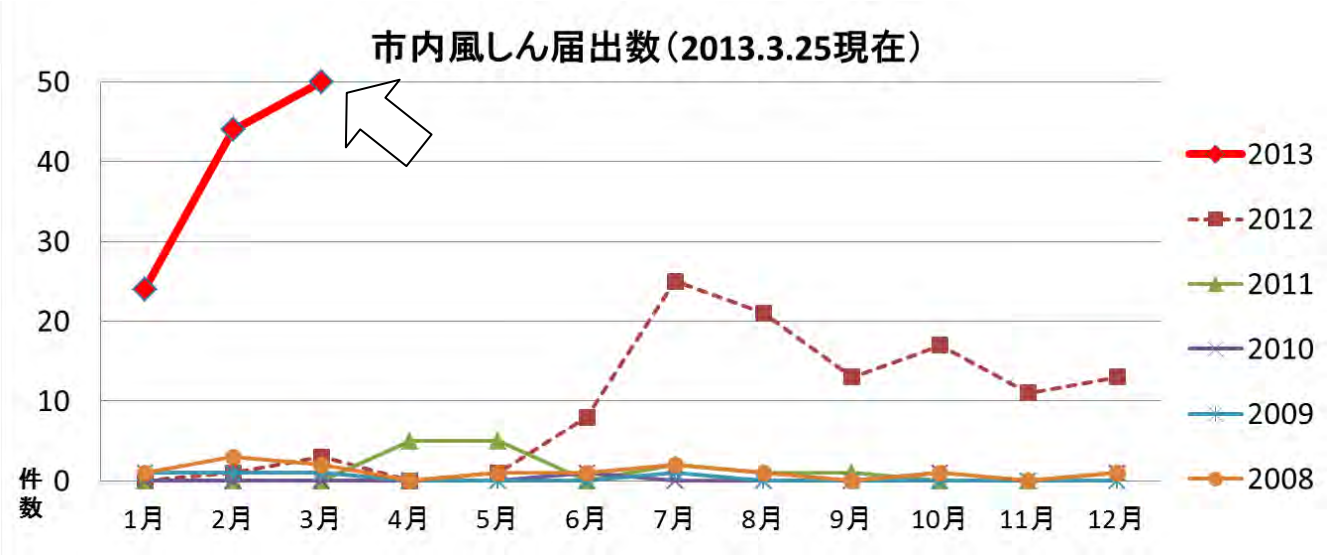
3 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症 1 件の報告がありました。ベトナムでの経口感染が推定されています。

4 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:1 件の孤発性の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。

5 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:AIDS が 1 件、無症状病原体保有者 1 件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

6 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**: 1 件の *VanC* 型(*Enterococcus gallinarum*)の報告がありました。原疾患は腫瘍による消化管穿孔で、抗生剤長期使用による感染が推定されています。

7 **風しん**:50 件(男性 42 件、女性 8 件)の報告がありました。3 件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。昨年 6 月以降風しんの流行が続いていますが、今年に入り飛躍的に増加しています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。
※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言
http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf
◆横浜市感染症臨時情報:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

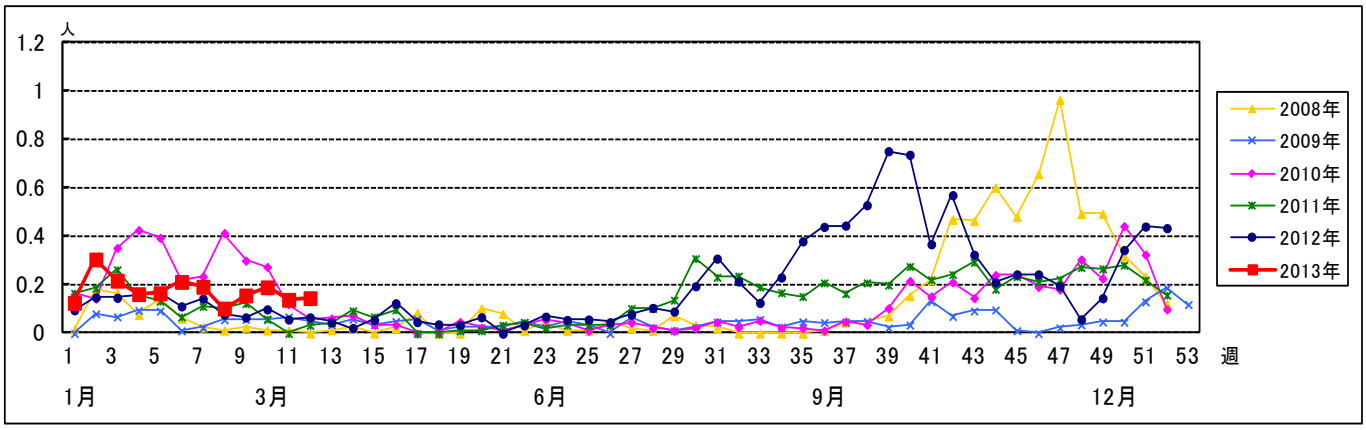


8 **麻しん**:10 歳代の報告が 1 件ありました。4 歳時に麻しんの予防接種歴が 1 回ありました。発熱、発疹、カタル症状から臨床診断されています。PCR 検査は実施できませんでした。周囲に麻しんの感染者はいませんでした。平成 25 年 4 月 1 日より適用となる「麻しんに関する特定感染症予防指針」では、「臨床診断をした時点でまず臨床診断例として届出を行うとともに、血清IgM抗体検査等の血清抗体価の測定の実施と、都道府県等が設置する地方衛生研究所でのウイルス遺伝子検査等の実施のための検体の提出を求めるものとする」とされています。

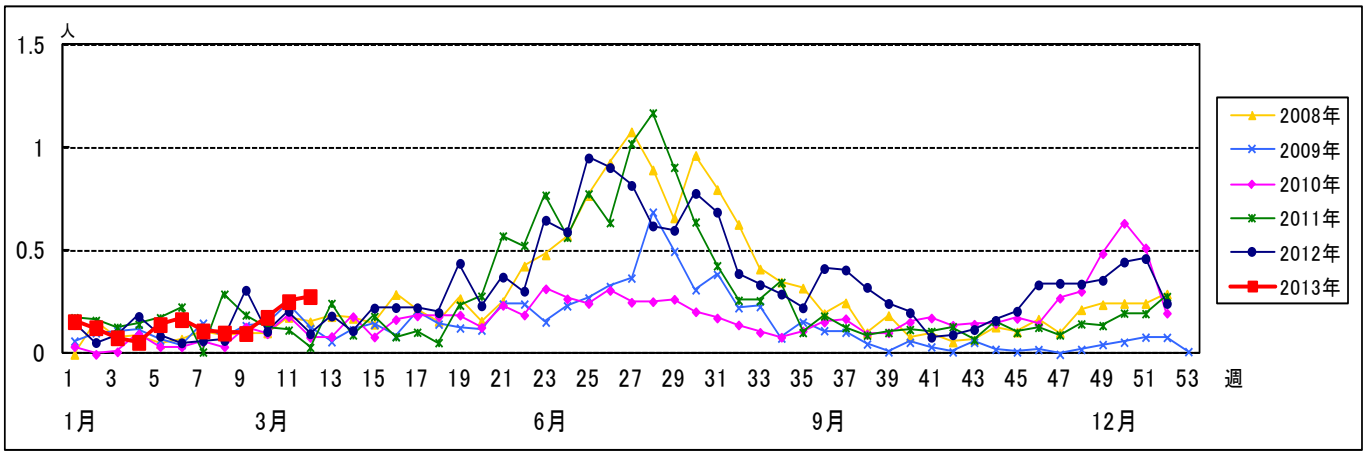
定点把握の対象

平成 25 年　週ー月日対照表	
第 9 週	2 月 25 日～3 月 3 日
第 10 週	3 月 4～10 日
第 11 週	3 月 11～17 日
第 12 週	3 月 18～24 日

1 **RS ウイルス感染症**:第 12 週は市全体で定点あたり 0.15 と、例年に比べやや報告数が多くなっています。RS ウイルス感染症は感染力が強く、生後 1 歳までに 70%、2 歳までにほぼ 100%が初感染を受けると言われていますが。また、再感染も多く、感染者の 1～3%は重症化することが指摘されていますので注意が必要です。



2 **咽頭結膜熱**:第 12 週は市全体で定点あたり 0.28 と、例年に比べやや報告が多くなっています。特に、金沢区で 2.60 と報告が多くなっており、注意が必要です。



3 **性感染症**:2 月は、性器クラミジア感染症は男性が 17 件、女性が 13 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 4 件、女性が 7 件です。尖圭コンジローマは男性 5 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 16 件、女性が 1 件でした。

4 **基幹定点週報**:全国では<u>マイコプラズマ肺炎</u>が定点あたり 1.00 を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に 1.00 を下回り、第 12 週では 0.58 とやや落ち着いてきています。横浜市でも第 9 週 0.33、第 10 週 1.50、第 11 週 1.00、第 12 週 2.00、と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきましたが、まだ多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5 **基幹定点月報**:2 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 2 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 4 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 4 月 25 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **風しんが非常に流行しています。**
- **マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。**

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

パラチフス	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
E 型肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
アメーバ赤痢	2 件	梅毒	1 件
急性脳炎	1 件	風しん	66 件
後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	4 件		

1 **パラチフス:** 1 件の報告がありました。感染経路感染地域等不明です。

2 **E 型肝炎:**60 歳代の報告が 1 件ありました。国内での経口感染が推定されていますが、詳細は調査中です。E 型肝炎の報告で国内感染が推定されたのは、市内では本件が初めてです。1999 年 4 月から 2008 年第 26 週までのE型肝炎の報告のうち、推定感染地域が国内とされている 218 例中、111 例に生肉や内臓の喫食が関連していたとのことです。肉や内臓については、中心部までよく加熱して食べましょう。E型肝炎となった場合の致死率は、一般の人々では 0.5-4.0%ですが、妊婦の場合では 17-33%と高く、注意が必要です。

◆E 型肝炎とは(国立感染症研究所 H.P.)
http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/hepatitis/hepatitis-e.html

◆E 型肝炎について(横浜市衛生研究所 H.P.)
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hev1.html

3 **アメーバ赤痢:**腸管外アメーバ症(感染経路・感染地域等不明)1 件、腸管アメーバ症(日本国内での性的接触による感染が推定)1 件の報告がありました。

4 **急性脳炎:**幼児の報告が 1 件ありました。接触感染が推定され、病原体として便検体からロタウイルス(遺伝子型 G1P8)が検出されています。下痢、嘔吐が 3 日間続いた後、小脳失調や意識障害が出現しました。

5 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**AIDS が 2 件、無症状病原体保有者 2 件の報告がありました。全て国内での感染が推定されています。無症状病原体保有者の 1 件は異性間性的接触、その他の 3 件は同性間性的接触による感染が推定されています。

6 **侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 2013 年 4 月 1 日より届出疾患となりました。70 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。症状は肺炎で、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。血清型は型別不能型でした。感染経路は不明です。なお、インフルエンザ菌では、莢膜があるものについては a～f 型までの 6 種類に分類されていますが、莢膜がないものは分類不能(nontypeable)型とされています。分類不能型は、重症の感染症を起こすこともありますが、莢膜があるインフルエンザ菌に比べると概して重症とはなりにくいと言われています。

7 **侵襲性肺炎球菌感染症:**2013 年 4 月 1 日より届出疾患となりました。6 件の報告があり、いずれも血液から菌が検出されています。それぞれの症例は、①90 歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は全身倦怠感で、胆管炎からの感染が推定されています。血清型 11 型②70 歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と呼吸困難。血清型不明③50 歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱。血清型 22 型④0 歳(生後 6 ヶ月～12 か月)女児。ワクチン接種歴 3 回(7 価結合型)有り。症状は肺炎。血清型 19 型⑤80 歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、全身倦怠感。血清型 7 型⑥80 歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は肺炎。血清型検査中)の報告がありました。予防にはワクチン接種が重要です。

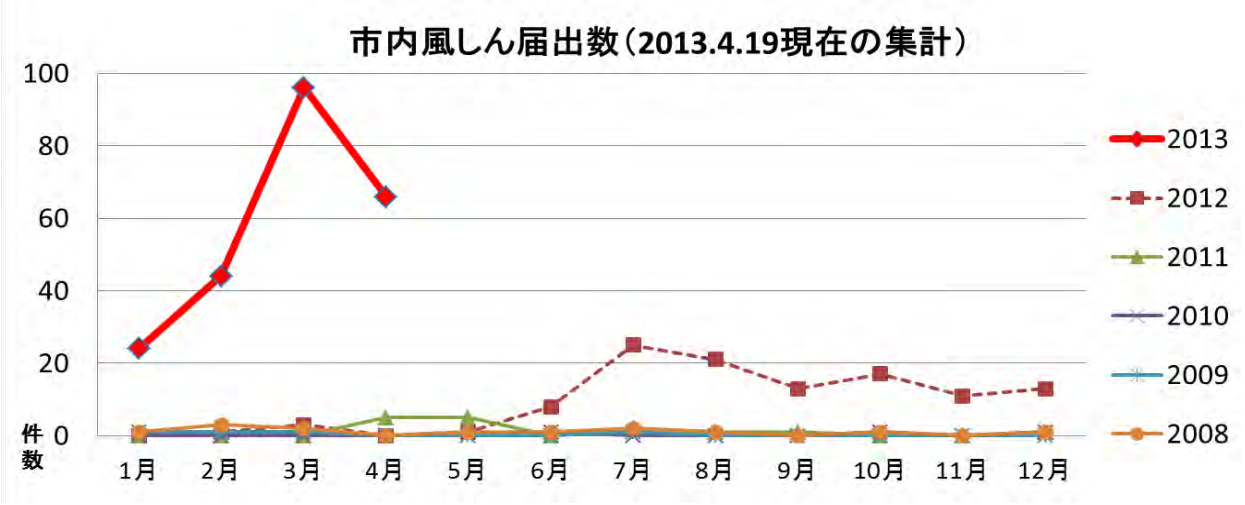
8 **梅毒:**1 件の晩期顕症梅毒の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

9 **風しん**:66 件(男性 55 件、女性 11 件)の報告がありました。5 件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんの流行は昨年 6 月から継続し、今年に入り報告数が大幅に増加しています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4 月 22 日から予防接種の助成が始まりました。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言
http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf

◆横浜市感染症臨時情報:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

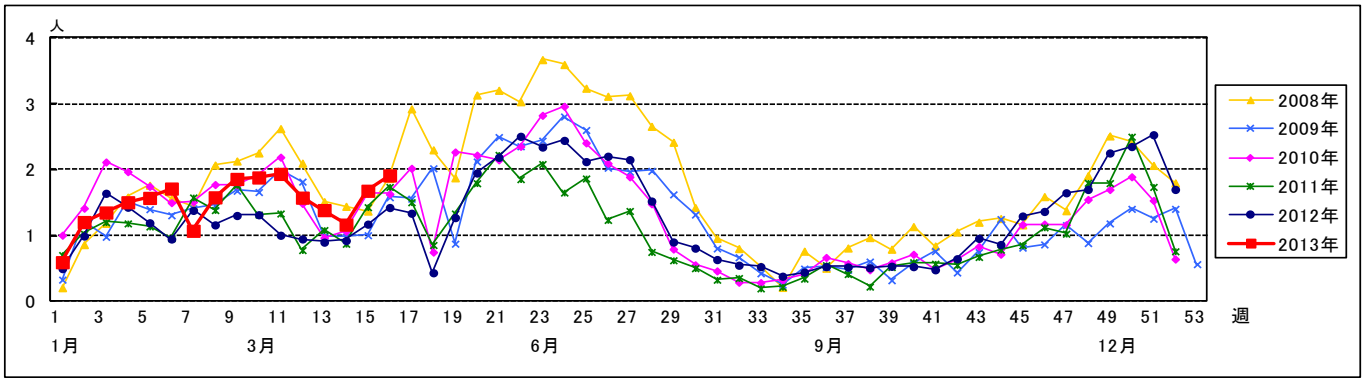
◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html



定点把握の対象

1 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 16 週は市全体で定点あたり 1.92 と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値 8.00 を大きく下回っています。

平成 25 年 週ー月日対照表	
第 13 週	3 月 25 日～31 日
第 14 週	4 月 1～7 日
第 15 週	4 月 8～14 日
第 16 週	4 月 15～21 日



2 **性感染症**:3 月は、性器クラミジア感染症は男性が 14 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 3 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 23 件、女性が 3 件でした。

3 **基幹定点週報**:全国では<u>マイコプラズマ肺炎</u>が定点あたり 1.00 を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に 1.00 を下回り、第 13 週 0.48、第 14 週 0.42、第 15 週 0.46、第 16 週 0.52 と落ち着いてきています。横浜市でも第 13 週 0.33、第 14 週 0.50、第 15 週 1.00、第 16 週 1.00、と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきましたが、全国より多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

4 **基幹定点月報**:3 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 5 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 5 月 30 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

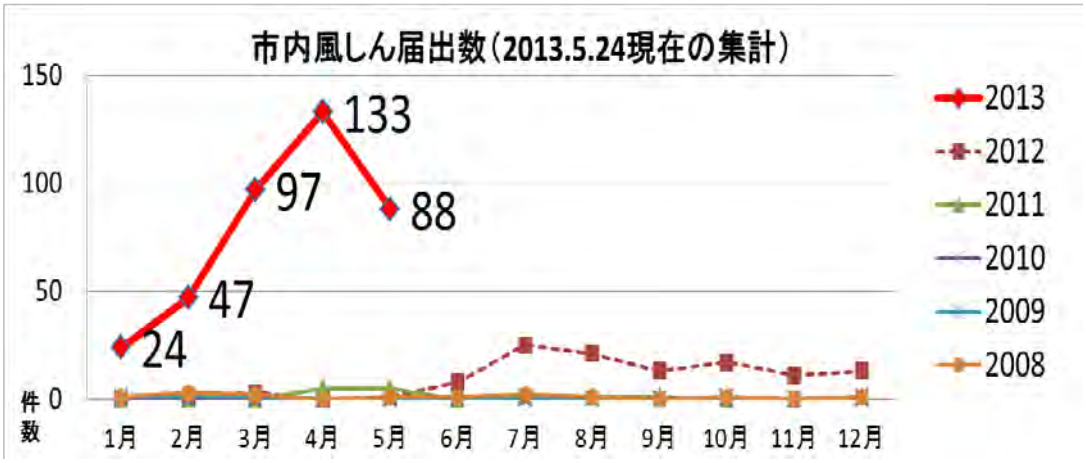
- 風しんの流行が続いています。

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	1 件
デング熱	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
レジオネラ症	2 件	破傷風	1 件
アメーバ赤痢	3 件	風しん	88 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症:** 1 件(O157 VT2)の報告がありました。感染経路等調査中です。
2 **デング熱:**2 件の報告がありました。どちらも渡航先(インドネシアバリ島)での感染が推定されています。
3 **レジオネラ症:**肺炎型 1 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありました。肺炎型は国内での水系感染が推定されており、ポンティアック熱型は感染経路等不明です。
4 **アメーバ赤痢:**腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1件は国内での異性間性的接触、もう1件は中国、マレーシアでの感染が推定されています。残るもう1件は感染経路感染地域等不明です。
5 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**1 件の報告がありました。全身のリンパ節腫脹を認め、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
6 **侵襲性肺炎球菌感染症:** 6 件の報告があり、それぞれの症例は、①60 歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は発熱、意識障害、項部硬直で髄膜炎と診断されています。血清型 11 型(血液より)。娘、孫に感冒様症状あり。②70 歳代男性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と意識障害で、髄膜炎と診断されています。血清型 22 型(血液、髄液より)。③80 歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳、全身倦怠感で肺炎と診断されています。血清型 19 型(血液より)。④80 歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳で、肺炎と診断され、口腔内分泌物の誤嚥が原因と推定されています。血清型 15 型(血液より)。⑤70 歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は頭痛、発熱と倦怠感で、血液から肺炎球菌が検出されています。血清型 14 型(血液より)。⑥1 歳男児。ワクチン接種歴 3 回(7 価結合型)有り。症状は発熱、咳、痙攣と項部硬直。血液、髄液より肺炎球菌が検出されています。血清型は現在検査中です。今回、60 歳以上の症例のすべてで予防接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。
7 **破傷風:**1 件の 60 歳代男性の報告がありました。国内での労働環境からの感染が推定されています。
8 **風しん:**88 件(男性 66 件、女性 22 件)の報告がありました。10 件を除いて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4 月 22 日から予防接種の助成が始まっています。

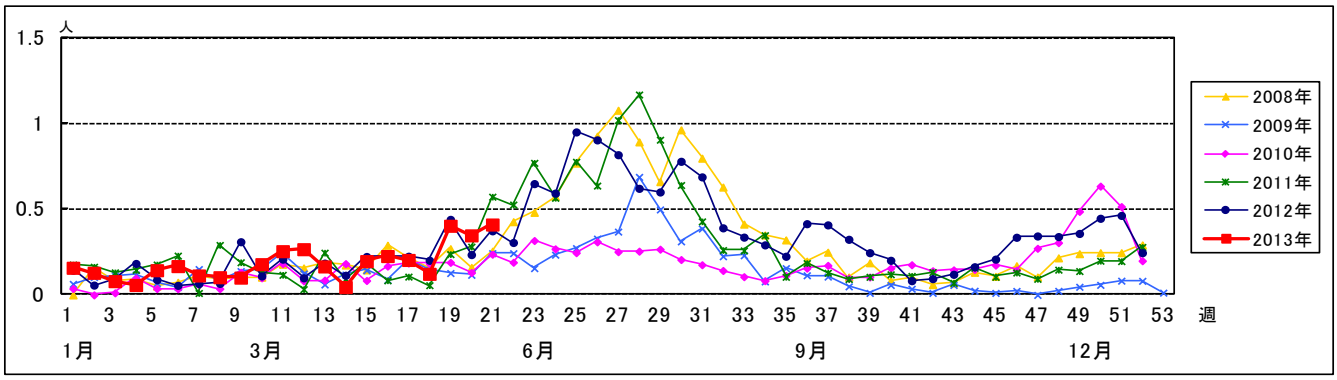


※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言
http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf
◆横浜市感染症臨時情報:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/
◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html

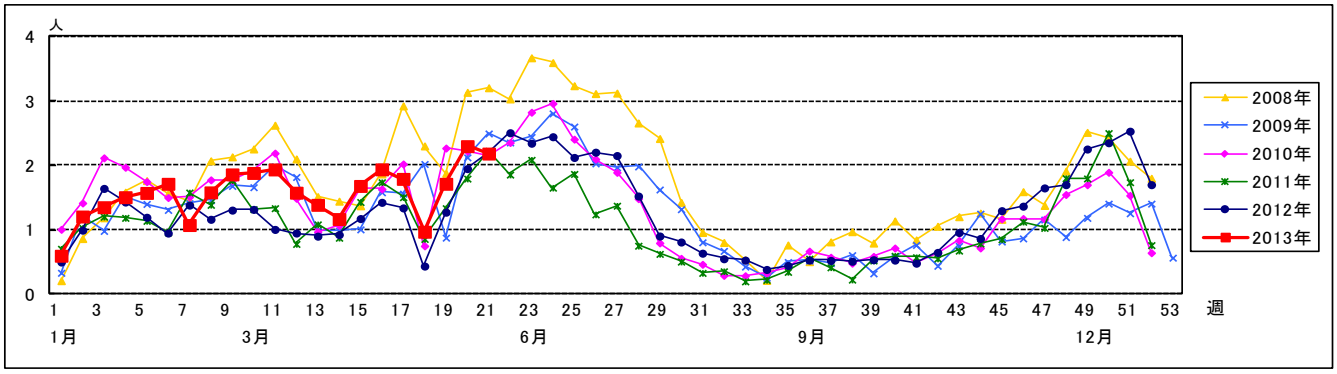
定点把握の対象

1 **咽頭結膜熱**:市全体で第 21 週 0.41 とやや増加しています。例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています。

平成 25 年　週ー月日対照表	
第 17 週	4 月 22～28 日
第 18 週	4 月 29 日～5 月 5 日
第 19 週	5 月 6～12 日
第 20 週	5 月 13～19 日
第 21 週	5 月 20～26 日



2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 21 週は市全体で定点あたり 2.19 と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値 8.00 を大きく下回っています。



3 **性感染症**:4 月は、性器クラミジア感染症は男性が 22 件、女性が 12 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 3 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 13 件、女性が 1 件でした。

4 **基幹定点週報**:全国では<u>マイコプラズマ肺炎</u>が定点あたり 1.00 を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に 1.00 を下回り、第 20 週 0.49、第 21 週 0.51 と落ち着いてきています。横浜市でも第 17 週 0.75、第 18 週 2.00、第 19 週 0.50、第 20 週 0.50、第 21 週 0.00 と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきました。第 17 週に無菌性髄膜炎の報告が 1 件(7 歳女児。髄液よりウイルス検索中)ありました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5 **基幹定点月報**:4 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 12 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 6 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 6 月 27 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- 風しんの流行が続いています。

全数把握の対象

【6 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	2 件	アメーバ赤痢	4 件
細菌性赤痢	1 件	急性脳炎	1 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	3 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	1 件
レジオネラ症	1 件	風しん	83 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症:** 2 件(O157 VT1VT2、O157H7 VT1VT2)の報告がありました。感染経路等調査中です。本症は例年夏季に感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75℃で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。

2 **細菌性赤痢:** 1 件の Shigella sonnei(D 群)の報告がありました。渡航先(カンボジア、ベトナム)での感染が推定されています。

3 **E 型肝炎:**50 歳代の報告が 1 件ありました。国内での経口感染(生肉摂取)が推定されています。発熱、全身倦怠感、黄疸、肝機能異常があり、血清 IgA 抗体の検出で診断されました。国内での感染の多くは、肉や内臓の喫食が関連しています。E型肝炎となった場合、致死率は、一般の人々では、0.5～4.0%ですが、妊婦の場合では、17～33%と高く、注意が必要です。

4 **デング熱:**1 件の報告がありました。渡航先(インドネシアバリ島)での感染が推定されています。

5 **レジオネラ症:**肺炎型 1 件の報告があり、塵埃感染が推定されていますが詳細については現在調査中です。

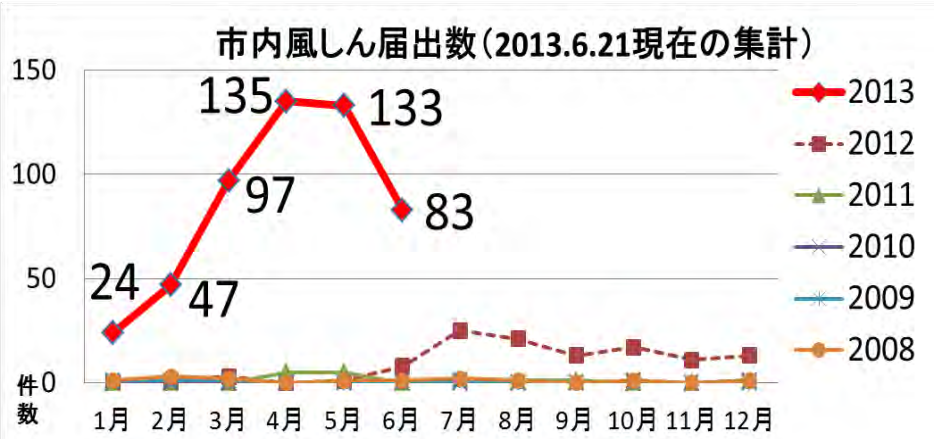
6 **アメーバ赤痢:**腸管アメーバ症 3 件、腸管外アメーバ症 1 件の報告があり、すべて国内での感染が推定されています。腸管アメーバ症のうち、1 件は性的接触による感染が推定され、他は感染経路不明でした。腸管外アメーバ症の 1 件は肝膿瘍で、感染経路不明でした。

7 **急性脳炎:**60 歳代女性の報告が 1 件ありました。帯状疱疹が悪化し、意識障害、構音障害が出現しました。病原体は現在検査中です。

8 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**3 件の報告がありました。1 件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触、もう 1 件は AIDS で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。残るもう 1 件はその他(クリプトコッカス肺炎)で感染経路感染地域等不明でした。

9 **侵襲性肺炎球菌感染症:** 幼児の報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴は 2 回有り、症状は発熱と咳で、血液中から肺炎球菌が検出されました。血清型 1 型(血液より)です。

10 **風しん:**83 件(男性 62 件、女性 21 件)の報告がありました。7 件を除いて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を



受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成(4 月 22 日～9 月 30 日)が実施されています。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言
http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf

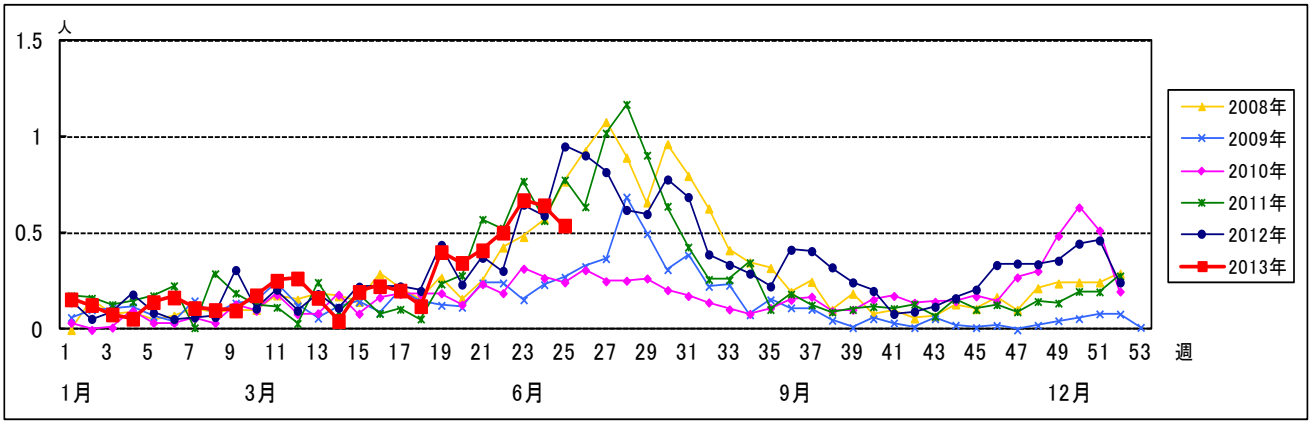
◆横浜市感染症臨時情報:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html

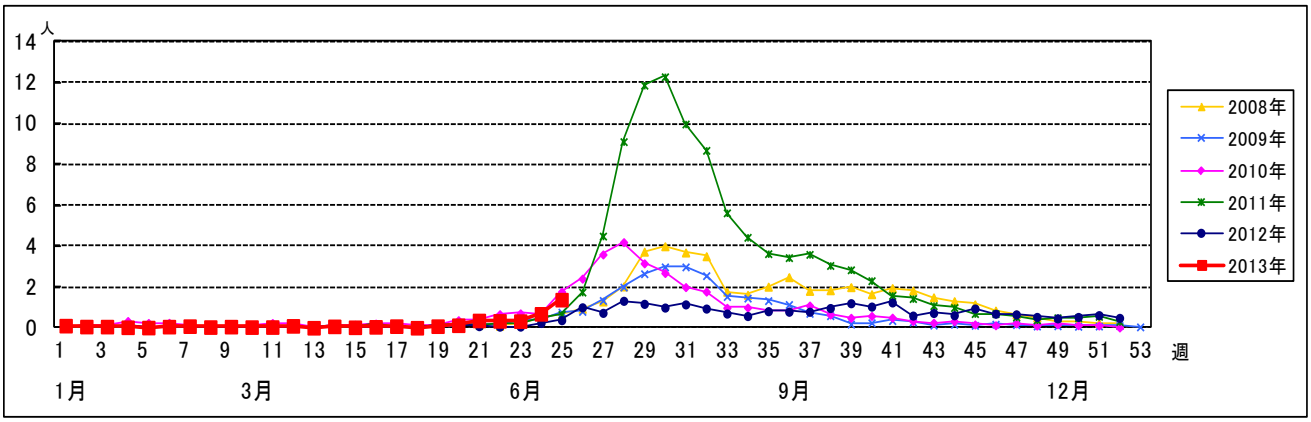
定点把握の対象

平成 25 年　週ー月日対照表	
第 22 週	5 月 27～6 月 2 日
第 23 週	6 月 3～9 日
第 24 週	6 月 10～16 日
第 25 週	6 月 17～23 日

1 **咽頭結膜熱**:市全体で第 23 週 0.67 とやや増加していましたが、第 25 週 0.54 と減少しました。ただ、例年夏季に流行する疾患なので注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。



2 **手足口病**:第 25 週は市全体で定点あたり 1.40 と、やや報告数が多くなってきました。例年これからの時期に流行するため、今後の注意が必要です。



3 **性感染症**:5 月は、性器クラミジア感染症は男性が 17 件、女性が 12 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 9 件、女性が 0 件でした。

4 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎では第 22 週 0.75、第 23 週 1.33、第 24 週 1.00、第 25 週 0.00 でした。以前に比べ落ち着いています。無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5 **基幹定点月報**:5 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 3 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 7 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 7 月 25 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- 手足口病が流行しています。
- 風しんの流行が続いています。
- 夏休みの海外旅行先における感染症に注意が必要です。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	劇症溶血性レンサ球菌感染症	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	6 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	2 件
腸チフス	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	1 件	梅毒	1 件
レジオネラ症	4 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	3 件	風しん	40 件
急性脳炎	1 件		

1 **細菌性赤痢:** Shigella sonnei(D 群)の報告が 1 件ありました。渡航先(インド)での感染が推定されています。

2 **腸管出血性大腸菌感染症:**6 件(O157 VT1VT2 4 件、O157 H7VT1VT2 1 件、O157 VT2 1 件)の報告がありました。このうち、1 件では同居家族内発症がありましたが、感染原因は調査中です。本症は例年これからの季節に多く報告されています。家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」(衛生研究所)

3 **腸チフス:**1 件の報告がありました。渡航先(ネパール)での感染が推定されています。

4 **デング熱:**1 件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

海外での感染症予防情報掲載ホームページ

これから海外旅行に出かける人が増えることが予想され、感染症に注意が必要です。

○海外に渡航される方へ(保健所)

○夏休みに海外へ渡航される皆さまへ(厚生労働省検疫所)

○夏休み期間中における海外での感染症予防について(厚生労働省)

5 **レジオネラ症:**肺炎型 4 件の報告がありました。感染原因等詳細については現在調査中です。

6 **アメーバ赤痢:**腸管アメーバ症 3 件の報告があり、すべて国内での感染が推定されています。2 件は経口感染が、残る 1 件は性的接触による感染が推定されています。

7 **急性脳炎:**学童の報告が 1 件ありました。症状は発熱(38℃以上)、痙攣と意識障害で、病原体検索中です。

8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症:**40 歳代男性の報告が 1 件ありました。血清型は G 群(国内の統計では、本症の起因菌では A 群の次に G 群が多く報告されています。)です。感染原因感染経路不明です。

9 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):** 2 件の無症状病原体保有者の報告がありました。1 件は国内での同性間性的接触による感染が推定されており、残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。

10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 70 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。症状は発熱、意識障害、ショックで、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。莢膜型は e 型でした。

11 **梅毒:**1 件の早期顕症Ⅱ期(梅毒性乾癬)の報告があり、国内での性的接触による感染が推定されています。

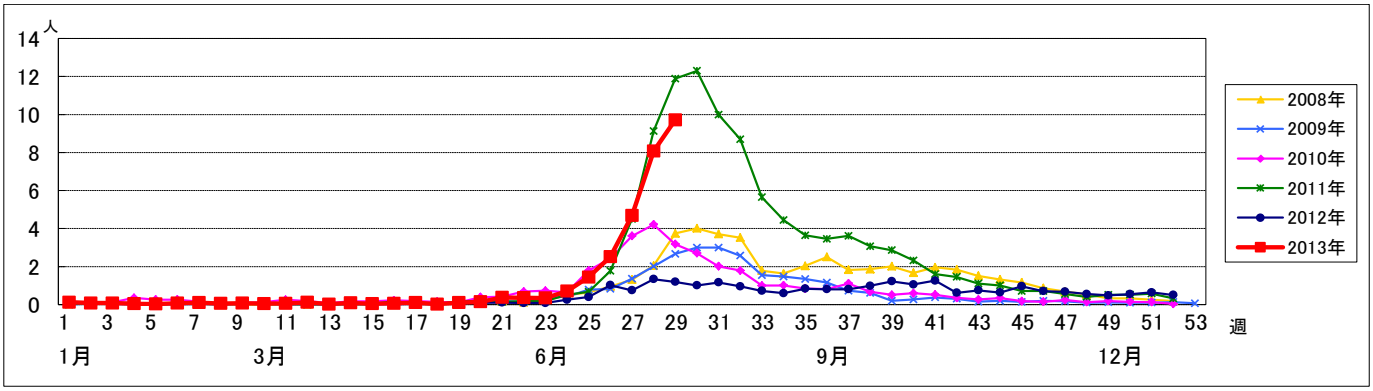
12 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症:** 1 件の *VanA* 型(*Enterococcus faecium*)の報告がありました。中心静脈カテーテルからの感染が推定されています。

13 **風しん**:40 件(男性 27 件、女性 13 件)の報告がありました。うち 37 件で予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。
◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)
◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

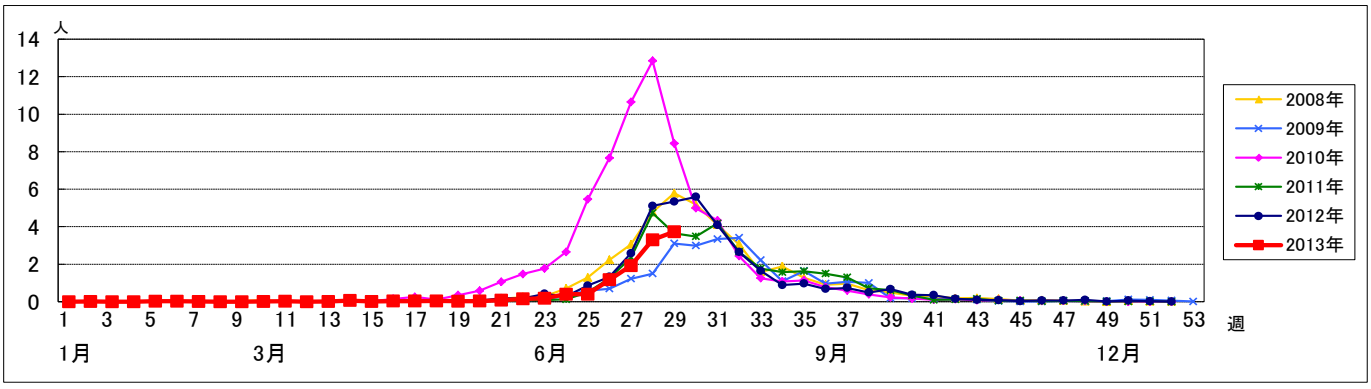
定点把握の対象

平成 25 年 週ー月日対照表	
第 26 週	6 月 24～30 日
第 27 週	7 月 1～7 日
第 28 週	7 月 8～14 日
第 29 週	7 月 15～21 日

1 **手足口病**:第 28 週に市全体で定点あたり 8.07 と、警報レベル(警報発令基準値 5.00)となりました。第 29 週は 9.71 とさらに増加しています。手足口病の原因ウイルスは、CA16 や EV71 が一般的ですが、今年は全国で CA6 が多く検出されており、市内の病原体定点からも CA6 が多く検出されています。CA6 を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せずに広範囲に認められるといった臨床的特徴があり、罹患 1～2 か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



2 **ヘルパンギーナ**:市全体で第 29 週 3.73 と増加しています。区別では、栄区 10.33、瀬谷区 9.50 港南区 7.40、緑区 3.33 と、4 区で警報レベル(警報発令基準値 6.00、警報解除基準値 2.00)となっています。



3 **性感染症**:6 月は、性器クラミジア感染症は男性が 24 件、女性が 15 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 9 件、女性が 11 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 21 件、女性が 0 件でした。

4 **基幹定点週報**:第 27 週に無菌性髄膜炎の報告が 1 件(6 歳男児。発疹などの症状から近医にて手足口病の診断有り。その後発熱(40℃)し、髄膜刺激症状出現。病原体検索中。)ありました。マイコプラズマ肺炎では第 26 週 1.00、第 27 週 0.00、第 28 週 0.00、第 29 週 0.66 と落ち着いています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5 **基幹定点月報**:6 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 9 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 8 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 8 月 29 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。**
- **手足口病の流行が続いています。**

全数把握の対象

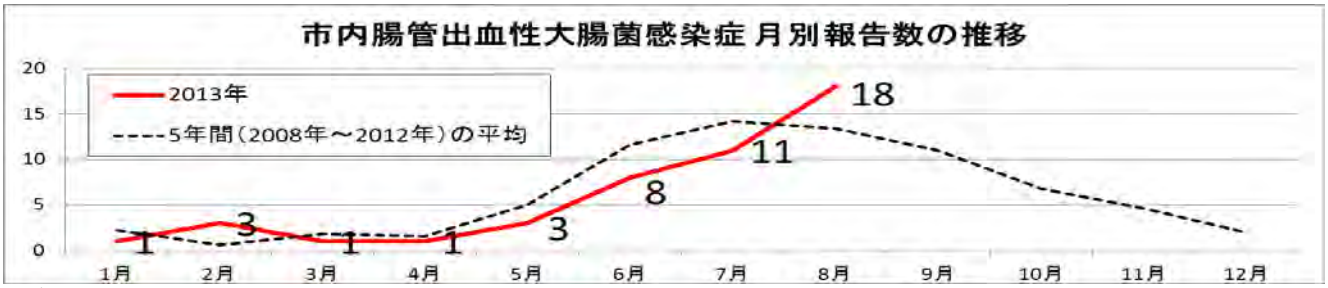
【8 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	18 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	1 件
デング熱	3 件	梅毒	3 件
レプトスピラ症	1 件	風しん	12 件
アメーバ赤痢	1 件		

1 **細菌性赤痢:** *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件ありました。渡航先(カンボジア)での感染が推定されています。

2 **腸管出血性大腸菌感染症:** 18 件(O157 VT1VT2 9 件、O157 H7 VT1VT2 1 件、O157 VT2 5 件、O157 VT1 1 件、O26 VT1 2 件)の報告がありました。このうち、4 件では同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。今月は 18 件報告されており、過去 5 年間(2008 年～2012 年)の 8 月の平均報告数(13.4 件)を上回っています。本症は例年これからの季節にも報告されるので注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、中心部まで加熱(75℃で 1 分間以上)することが重要です。さらに、しっかりした手洗いが重要です。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めに医療機関を受診しましょう。詳しくは、「O157 に注意しましょう」(衛生研究所)をご参照ください。

◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



3 **デング熱:** 3 件の報告がありました。すべて海外(インドネシア、カンボジア、マレーシア)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

4 **レプトスピラ症:** 1 件の報告がありました。沖縄西表島での水系感染です。

5 **アメーバ赤痢:** 腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1 件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。

6 **クロイツフェルト・ヤコブ病:** 古典型 CJD の報告が 1 件ありました。

7 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):** 1 件の無症状病原体保有者の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

8 **梅毒:** 3 件の報告があり、1 件は無症候期で感染経路感染地域等不明で、もう 1 件は早期顕症 I 期(初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹)で国内での異性間性的接触、残る 1 件は早期顕症 II 期(梅毒性バラ疹)で、国内での性的接触による感染が推定されています。

9 **風しん:** 12 件(男性 11 件、女性 1 件)の報告がありました。うち 11 件で予防接種歴が無

いか確認できませんでした。現在報告数は減少傾向ですが、まだ報告は続いています。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

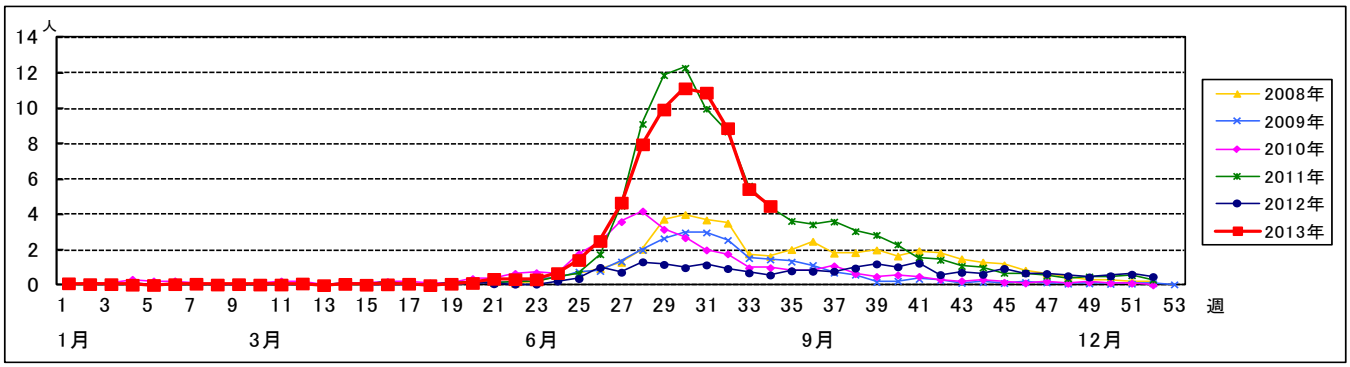
◆横浜市感染症臨時情報（衛生研究所）

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細（保健所）

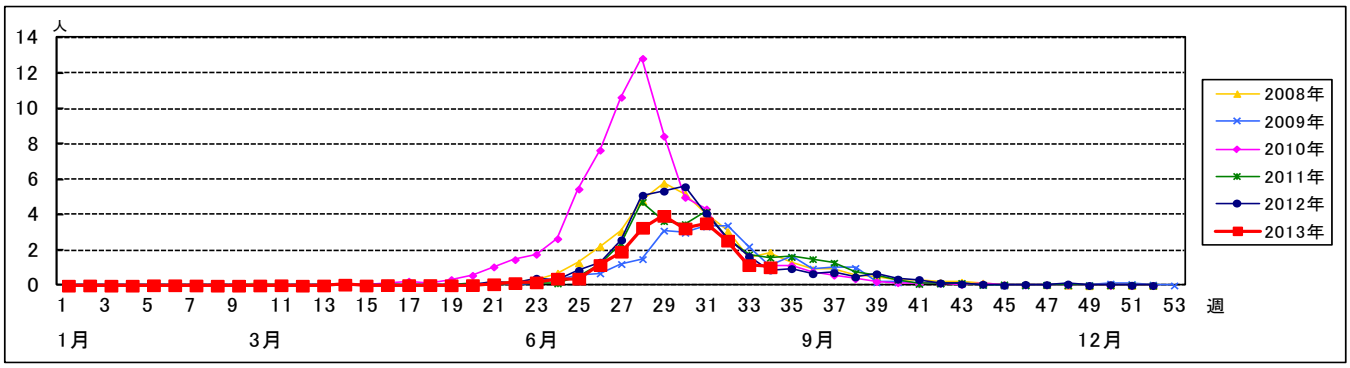
定点把握の対象

平成 25 年　週－月日対照表	
第 30 週	7 月 22～28 日
第 31 週	7 月 29～8 月 4 日
第 32 週	8 月 5～11 日
第 33 週	8 月 12～18 日
第 34 週	8 月 19～25 日

1　**手足口病**：流行のピークは過ぎましたが、第 34 週は市全体で定点あたり 4.49 であり、警報レベル終息基準値（2.00）を依然として上回っています。原因ウイルスでは今回の流行当初から、全国で CA6 が多く検出されており、現在も同様な傾向です。市内の病原体定点からも CA6 が多く検出されています。CA6 を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せずに広範囲に認められるといった臨床的特徴があり、罹患 1～2 か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。◆横浜市感染症臨時情報（衛生研究所）



2　**ヘルパンギーナ**：市全体で第 34 週 1.04 と減少傾向ですが、区別では、瀬谷区 5.50、港南区 2.50 で警報レベル解除基準値（2.00）を上回っています。



3　**性感染症**：7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 27 件、女性が 15 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 12 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 9 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 1 件でした。

4　**基幹定点週報**：第 32 週に無菌性髄膜炎の報告が 1 件（13 歳男児。帯状疱疹、発熱（40℃）、頭痛、異常行動あり。髄液、皮膚（痂皮）から VZV（PCR+）検出。）ありました。マイコプラズマ肺炎では第 30 週 0.50、第 31 週 0.25、第 32 週 0.00、第 33 週 0.67、第 34 週 1.00 と落ち着いています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5　**基幹定点月報**：7 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 12 件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 9 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 9 月 26 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。**
- **手足口病の報告が続いています。**

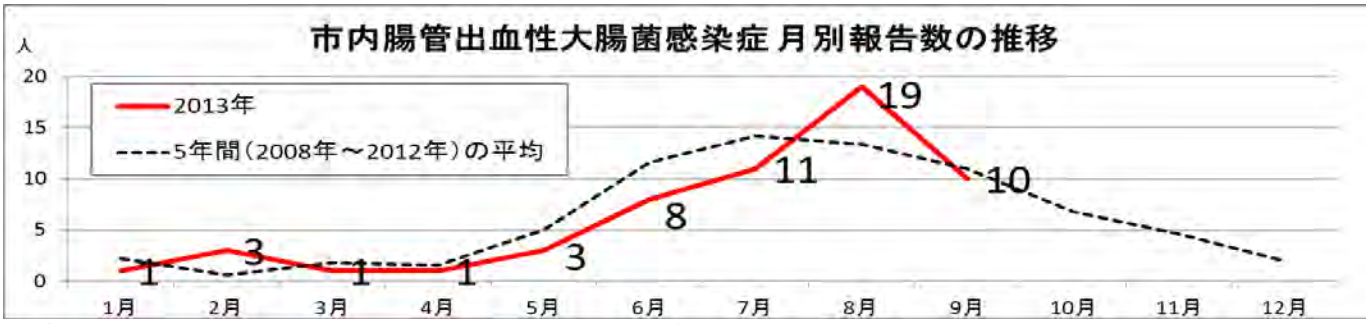
全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	10 件	アメーバ赤痢	1 件
腸チフス	1 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
レジオネラ症	5 件	風しん	2 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10 件(O157 VT1VT2 6 件、O157 VT2 2 件、O26 VT1 1 件、O103 VT1 1 件)の報告がありました。このうち、4 件では同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。先月は過去 5 年間の平均よりも報告数が上回りましたが、今月は過去 5 年間の平均(11.0)とほぼ同様です。本症は例年これからの季節にも報告されるので注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、中心部まで加熱(75℃で 1 分間以上)することが重要です。さらに、しっかりした手洗いが重要です。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めに医療機関を受診しましょう。詳しくは、「O157 に注意しましょう」(衛生研究所)をご参照ください。

◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



2 **腸チフス**:1 件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。

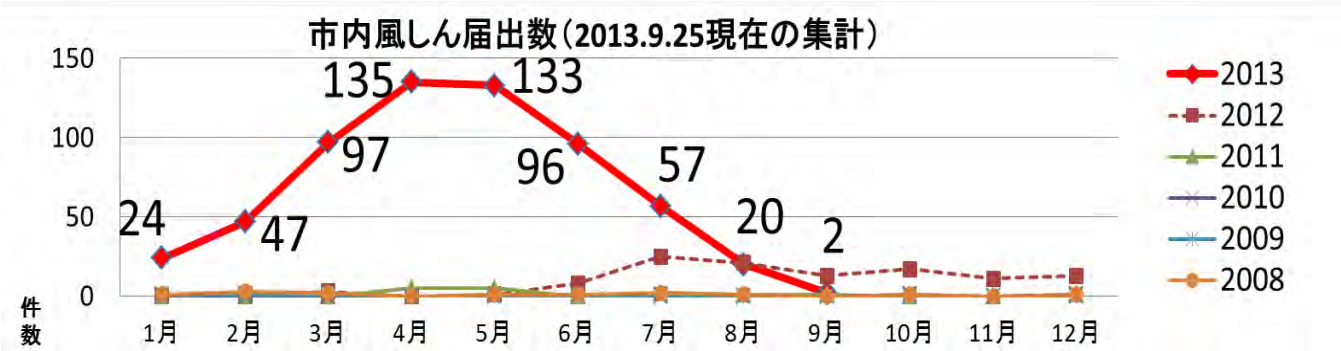
3 **レジオネラ症**:肺炎型 5 件の報告がありました。1 件は大韓民国、他はすべて国内での感染で、感染経路等不明でした。

4 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症 1 件の報告があり、国内での異性間性的接触が推定されています。

5 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:古典型 CJD の報告が 1 件ありました。

6 **風しん**:2 件の報告がありました。どちらも男性で、予防接種歴は確認できませんでした。現在報告数は減少傾向ですが、先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

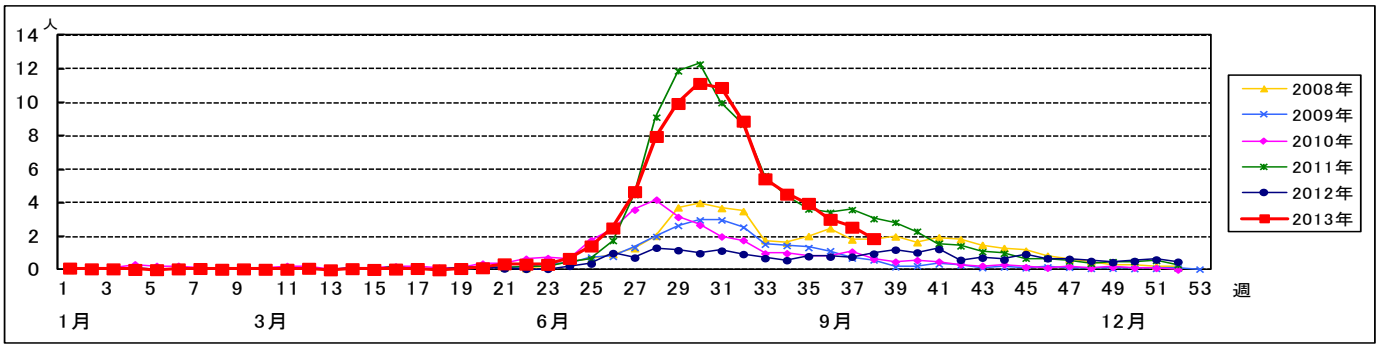
◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)



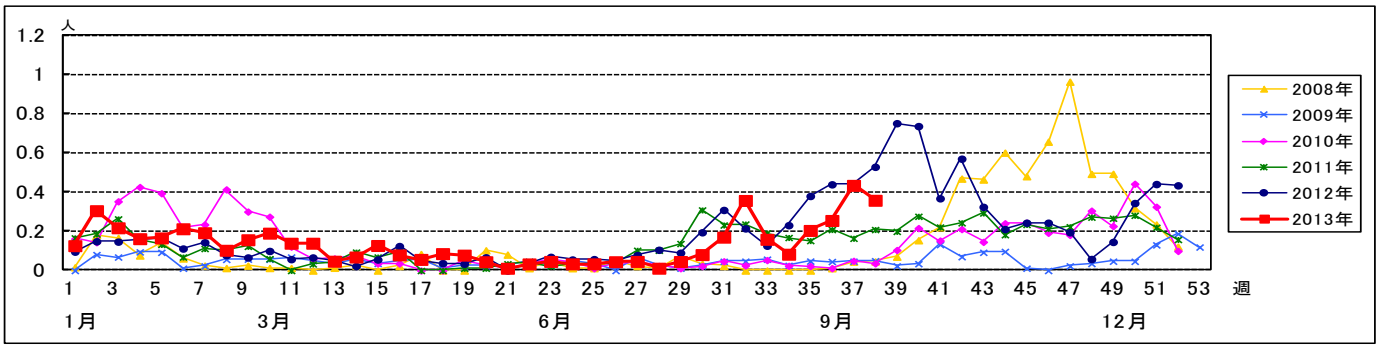
定点把握の対象

平成 25 年　週－月日対照表	
第 35 週	8 月 26～9 月 1 日
第 36 週	9 月 2～8 日
第 37 週	9 月 9～15 日
第 38 週	9 月 16～22 日

1　**手足口病**:第 38 週は市全体で定点あたり 1.88 となり、警報レベル終息基準値(2.00)を下回りました。ただ、磯子区 5.67、神奈川区 4.67、緑区 3.60、金沢区 2.60 と 4 区で依然として警報レベル終息基準値を上回っています。原因ウイルスでは今回の流行当初から、全国で CA6 が多く検出されており、現在も同様な傾向です。市内の病原体定点からも CA6 が多く検出されています。CA6 を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せずに広範囲に認められるといった臨床的特徴があり、罹患 1～2 か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



2　**RS ウイルス感染症**:市全体で第 38 週 0.36 とやや増加傾向です。気温の変動が激しくなる季節でもあり、今後の注意が必要です。



3　**性感染症**:8 月は、性器クラミジア感染症は男性が 28 件、女性が 20 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 11 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 4 件でした。淋菌感染症は男性が 19 件、女性が 2 件でした。

4　**基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎では第 35 週 0.50、第 36 週 1.00、第 37 週 1.33、第 38 週 2.00 とやや漸増傾向です。細菌性髄膜炎は第 35 週に 1 件(77 歳女性、血液・髄液よりクリプトコッカス検出)報告されました。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5　**基幹定点月報**:8 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 10 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件が報告されました。薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 10 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 10 月 31 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。**
- **RS ウイルス感染症の報告が多くなっています。**

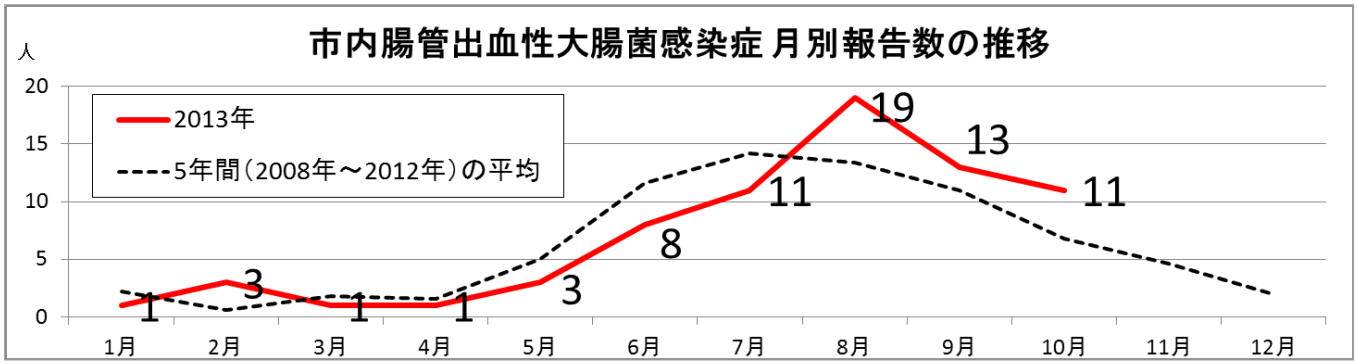
全数把握の対象

【10 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	アメーバ赤痢	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	11 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
腸チフス	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	1 件
A 型肝炎	1 件	梅毒	2 件
デング熱	2 件	風しん	6 件
レジオネラ症	2 件		

1 **細菌性赤痢:** *Shigella flexneri*(B 群)の報告が 1 件ありました。渡航先(バングラデシュ・インド・ネパール・パキスタン)での感染が推定されています。

2 **腸管出血性大腸菌感染症:** 11 件(O157 VT2 5 件、O103 VT1 3 件、O157 VT1 1 件、O26 VT1 1 件、O121 VT2 1 件)の報告がありました。このうち 4 件は食中毒発生施設を利用していました。また、2 件は同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。今年は 8 月、9 月、10 月で過去 5 年間の平均よりも報告数が有意($p<0.05$)に上回っています。本症は例年これからの季節は減少傾向が見られますが、報告数が多く推移しているため今後も注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、肉など食品の中心部まで加熱(75℃で 1 分間以上)することが重要です。焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策も大切です。2 次感染防止には、しっかりした手洗いを行いましょう。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めの医療機関への受診を心掛けてください。詳しくは、「O157 に注意しましょう」(衛生研究所)をご参照ください。



3 **腸チフス:** 1 件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。最近海外渡航歴の無い国内発生例が増えている(IDWR39 号)ので注意が必要です。

4 **A 型肝炎:** 1 件の報告がありました。国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

5 **デング熱:** 2 件の報告がありました。どちらも渡航先(インドネシア、フィリピン)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

6 **レジオネラ症:** 肺炎型 2 件の報告がありました。どちらも感染経路等不明でした。

7 **アメーバ赤痢:** 腸管アメーバ症 1 件の報告があり、タイでの経口感染が推定されています。

8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 70 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。肺炎で、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。血清型は型別不能型でした。感染経路は不明です。なお、インフルエンザ菌では、莢膜があるものについてはa～f型までの 6 種類に分類されていますが、莢膜がないもの

は分類不能(nontypeable)型とされています。分類不能型は、重症の感染症を起こすこともありますが、莢膜があるインフルエンザ菌に比べると概して重症とはなりにくいと言われています。

9 **侵襲性肺炎球菌感染症：** 70 歳代男性（ワクチン接種歴無し）の報告がありました。症状は発熱、咳、全身倦怠感です。血清型は型別不能型でした。

10 **梅毒：**2 件の早期顕症 I 期の報告がありました。1 件は硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹の症状で国内の性的接触による感染、もう 1 件は初期硬結の症状で国内の異性間性的接触による感染が推定されています。

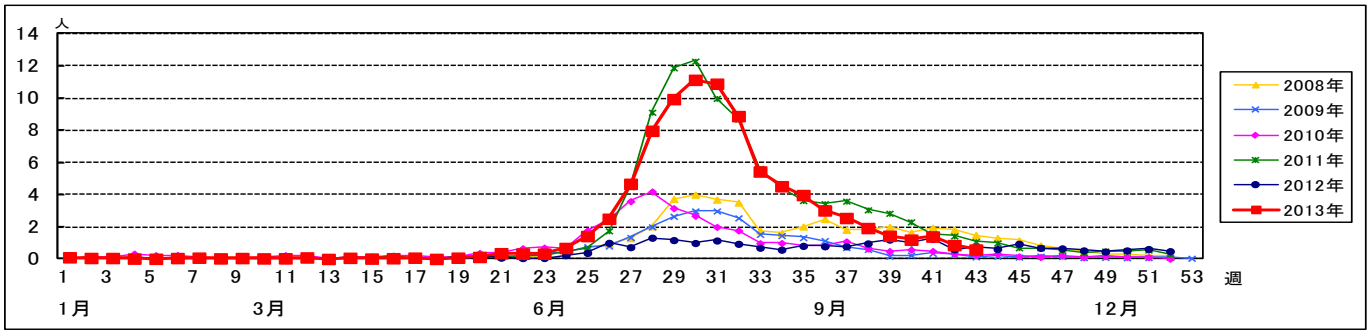
11 **風しん：**6 件の報告（すべて男性）がありました。4 件では予防接種歴は確認できませんでしたが、1 件は予防接種歴 2 回有り、残るもう 1 件は予防接種歴 1 回有り（どちらも発疹、発熱、リンパ節腫脹の臨床症状からの臨床診断）でした。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細（保健所）

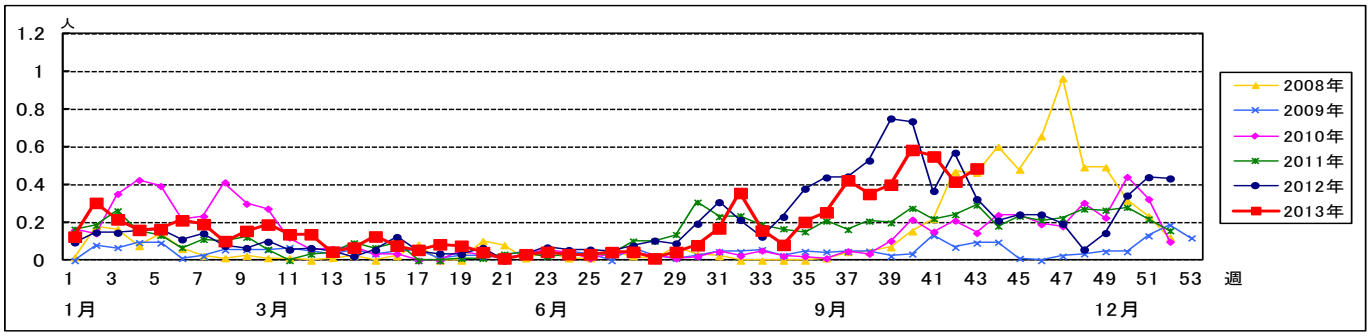
定点把握の対象

1 **手足口病：**第 43 週は市全体で定点あたり 0.60 と流行は落ち着いていますが、唯一神奈川区で 2.00 と、警報レベル終息基準値（2.00）を下回っていません。流行は終息に向かっていますが、この夏の流行の主な原因ウイルスである CA6 は、罹患 1～2 か月後の爪甲脱落症が報告されているので注意が必要です。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

平成 25 年　週－月日対照表	
第 39 週	9 月 23～29 日
第 40 週	9 月 30～10 月 6 日
第 41 週	10 月 7～13 日
第 42 週	10 月 14～20 日
第 43 週	10 月 21～27 日



2 **RS ウイルス感染症：**市全体で第 43 週 0.49 と増加傾向です。最近は気温の変動が激しく、寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。平成 24 年の人口動態統計によると、わが国の RS ウイルス感染症による死亡数は、2008～2012 年の 5 年間で、年平均 31.4 人（28～36 人）と報告（IDWR36 号）されており、米国では年間 400 例ほどの小児が RS ウイルス感染症により死亡していることが推察されています。



3 **性感染症：**9 月は、性器クラミジア感染症は男性が 35 件、女性が 17 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 2 件、女性が 7 件です。尖圭コンジローマは男性 8 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 18 件、女性が 2 件でした。

4 **基幹定点週報：**マイコプラズマ肺炎は第 39 週 0.25、第 40 週 0.67、第 41 週 0.00、第 42 週 0.50、第 43 週 0.00 と横ばい傾向です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。第 42 週から感染性胃腸炎（ロタウイルス）が新たに報告対象疾患に加わりましたが、報告はありませんでした。

5 **基幹定点月報：**9 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 2 件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 11 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 11 月 28 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザの流行の目安である定点あたり 1.00 を上回る区が見られました。**
- **RS ウイルス感染症の報告が多い状況が続いています。**
- **感染性胃腸炎の報告が増加しています。**
- **水痘の報告が増加しています。**

全数把握の対象

【11 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	2 件	ジアルジア症	1 件
腸チフス	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	3 件
レジオネラ症	3 件	風しん	1 件
アメーバ赤痢	2 件		

1 **細菌性赤痢:** *Shigella flexneri*(B 群)の報告が 1 件ありました。国内での感染が推定されています。

2 **腸管出血性大腸菌感染症:** 2 件(O157 VT2 、O103 VT1)の報告がありました。O157 VT2 の事例では国内での感染が推定されており、原因は現在調査中です。また、O103 VT1 の事例はイタリアでの感染が推定されていますが感染経路等不明です。

3 **腸チフス:** 1 件の報告がありました。渡航先(ネパール)での感染が推定されています。

4 **レジオネラ症:** 肺炎型 2 件、無症状病原体保有者 1 件(入院時の検査で判明)の報告がありました。どちらも感染経路等調査中です。

5 **アメーバ赤痢:** 腸管アメーバ症 2 件の報告があり、1 件は国内での同性間性的接触、もう 1 件は国外での異性間性的接触による感染が推定されています。

6 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):** 1 件の無症状病原体保有者の報告がありましたが、感染経路感染地域等不明でした。

7 **ジアルジア症:** 1 件の報告がありました。ネパールでの経口感染または水系感染が推定されています。

8 **侵襲性肺炎球菌感染症:** 3 件の報告がありました。1 件は 50 歳代女性(ワクチン接種歴無し)で、症状は発熱、咳、全身倦怠感です。血清型は 7 型でした。もう 1 件は 70 歳代男性(ワクチン接種歴不明)で、症状は発熱と咳で、肺炎が認められました。血清型は 19 型でした。残るもう 1 件は 80 歳代男性(ワクチン接種歴無し)で、症状は発熱と咳で、肺炎と低酸素血症が認められました。血清型は現在検査中です。

9 **風しん:** 1 件の 10 歳代女性の報告がありました。予防接種歴は確認できませんでした。ペア血清で診断されました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

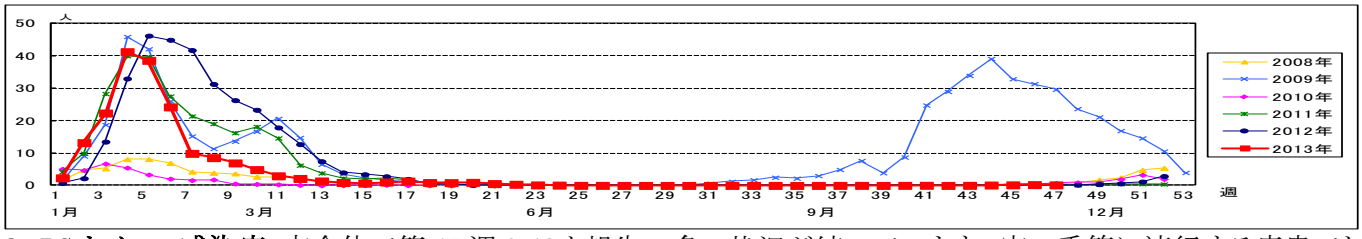
定点把握の対象

1 **インフルエンザ:** 第 47 週は市全体で定点あたり 0.17 と流行開始の目安となる 1.00 を大きく下回っていますが、緑区で 2.20 となりました。迅速キットの集計では、第 46 週 A 型 65.2%、B 型 34.8%、第 47 週 A 型 75.0%、B 型 25.0%と、シーズン初めにしては B 型の報告が多くなっています。全国のウイルス検出状況では、AH3 亜型(A 香港型)を中心に、AH1pdm09、B 型(ビクトリア系統)、B 型(山形系統)が混在しています。

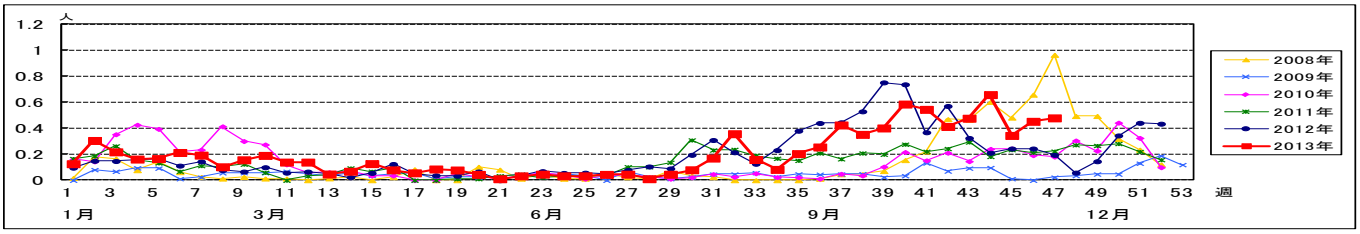
平成 25 年 週一月日対照表	
第 44 週	10 月 28～11 月 3 日
第 45 週	11 月 4～10 日
第 46 週	11 月 11～17 日
第 47 週	11 月 18～24 日

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

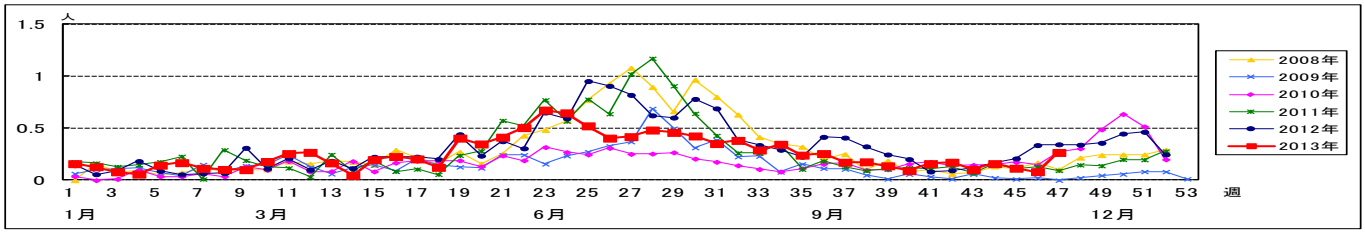
◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)
◆インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所)
◆インフルエンザ予防チラシ(横浜市)



2 **RS ウイルス感染症**:市全体で第 47 週 0.48 と報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。

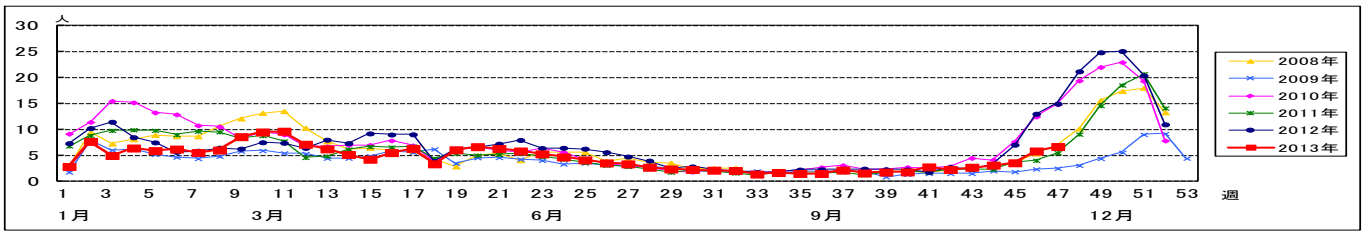


3 **咽頭結膜熱**:市全体で第 47 週 0.27 とやや報告が多くなっています。

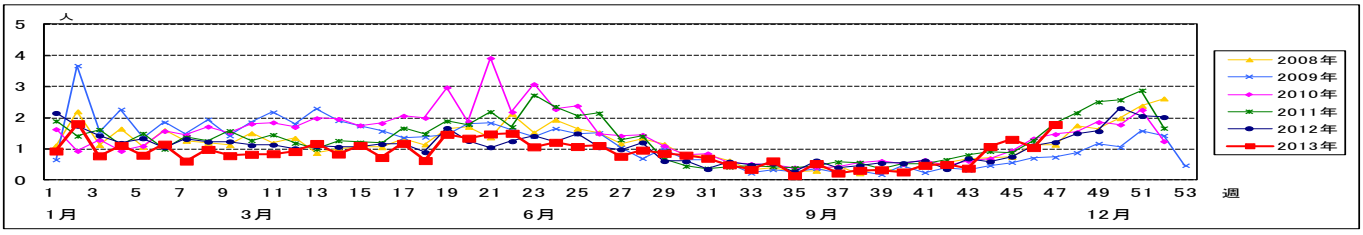


4 **感染性胃腸炎**:市全体で第 47 週 6.75 と報告が増加しています。例年冬期を中心に流行する疾患であり、今後の注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市感染性胃腸炎臨時情報(衛生研究所)



5 **水痘**:市全体で第 47 週 1.79 と報告が増加しています。瀬谷区では定点あたり 9.75 と警報レベル(7.00 以上)、中区 5.50、旭区 4.60 では注意報レベル(4.00 以上)となっています。例年年末にかけて報告数が増加するので注意が必要です。



6 **性感染症**:10 月は、性器クラミジア感染症は男性が 36 件、女性が 14 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 4 件です。尖圭コンジローマは男性 8 件、女性が 4 件でした。淋菌感染症は男性が 23 件、女性が 0 件でした。

7 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 44 週 1.25、第 45 週 0.75、第 46 週 0.75、第 47 週 0.00 となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 46 週に 1 件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

8 **基幹定点月報**:10 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 9 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件の報告がありました。薬剤耐性アシネトバクター感染症とペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 25 年 12 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 25 年 12 月 26 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9815

≪今月のトピックス≫

- **感染性胃腸炎の流行警報が発令(警報発令基準値:定点あたり 20.00 以上)されました。**
- **インフルエンザの流行の目安である定点あたり 1.00 を上回りました。**
- **RS ウイルス感染症の報告が多い状況が続いています。**
- **水痘の報告が増加しています。**

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	5 件
アメーバ赤痢	4 件	侵襲性肺炎球菌感染症	4 件
ウイルス性肝炎	1 件	梅毒	5 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件	風しん	1 件

1 **細菌性赤痢:** *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件ありました。国内での感染が推定されています。

2 **アメーバ赤痢:**腸管アメーバ症 4 件の報告があり、3 件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。

3 **ウイルス性肝炎:**1 件の B 型肝炎の報告があり、国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。

4 **クロイツフェルト・ヤコブ病:**古典型 CJD の報告が 1 件ありました。

5 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):** 5 件(AIDS 1 件、無症状病原体保有者 3 件、その他 1 件)の報告がありました。AIDS の症例では、ニューモシスティス肺炎が認められ、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の 3 件とその他の 1 件は、いずれも同性間性的接触による感染が推定されています。

6 **侵襲性肺炎球菌感染症:** 4 件の報告がありました。1 件は 40 歳代男性(ワクチン接種歴無し)で、蜂窩織炎による右下肢の激痛が見られました。血清型は 15 型でした。もう 1 件は 80 歳代男性(ワクチン接種歴不明)で、症状は発熱で、肺炎が認められました。血清型は 19 型でした。もう 1 件は女児(ワクチン接種歴 3 回有り)で、症状は発熱と咳で、血清型は 19 型でした。残るもう 1 件は女児(ワクチン接種歴 4 回有り)で、症状は発熱と全身倦怠感で、血清型は 24 型でした。

7 **梅毒:**5 件(早期顕症Ⅱ期 2 件、無症候期 3 件)の報告がありました。いずれも国内での性的接触による感染が推定されています。

8 **風しん:**1 件の 30 歳代男性の報告(ワクチン接種歴不明)がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施されています。

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

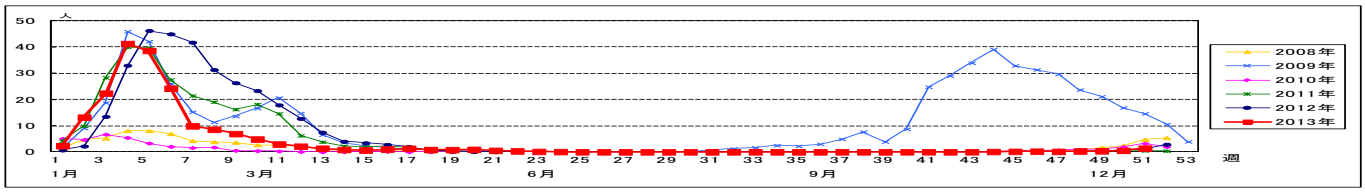
定点把握の対象

平成 25 年 週ー月日対照表	
第 48 週	11 月 25～12 月 1 日
第 49 週	12 月 2～8 日
第 50 週	12 月 9～15 日
第 51 週	12 月 16～22 日

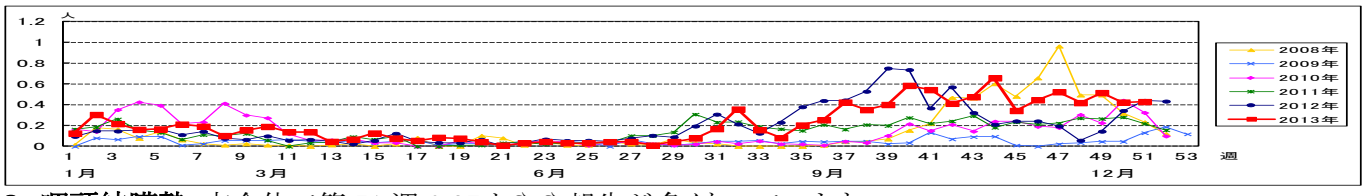
1 **インフルエンザ:**第 51 週は市全体で定点あたり 1.41 と、流行開始の目安となる 1.00 を超えました。区別でも 11 区で 1.00 を上回りました。また、学級閉鎖(小学校学級)が第 50 週 2 件、第 51 週 1 件報告されています。迅速キットの結果では、今シーズン 36 週からの累計で、A 型 54.3%(188 件)、B 型 45.7%(158 件)となっています。今シーズン衛生研究所で検出された結果は AH3 亜型(A 香港型)8 件、AH1pdm09 が 6 件、B 型(ビクトリア系統)5 件です。全国のウイルス検出状況でも、AH3 亜型(A 香港型)、AH1pdm09、B 型(ビクトリア系統)、B 型(系統不明)が混在しています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)

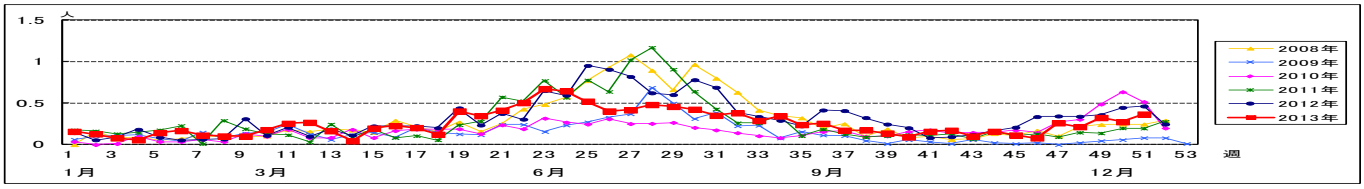
◆インフルエンザ予防チラシ(横浜市)

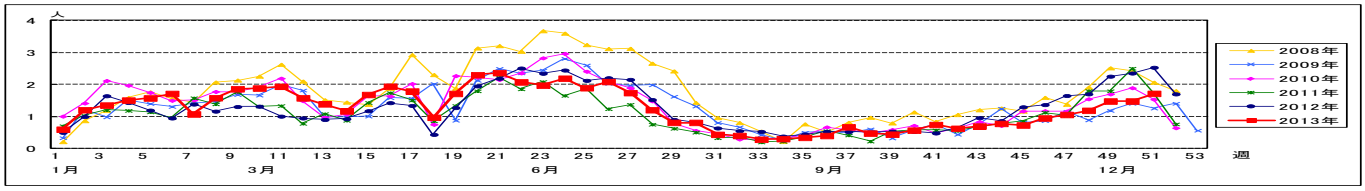


2 **RS ウイルス感染症**:市全体で第 51 週 0.43 と報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。



3 **咽頭結膜熱**:市全体で第 51 週 0.37 とやや報告が多くなっています。

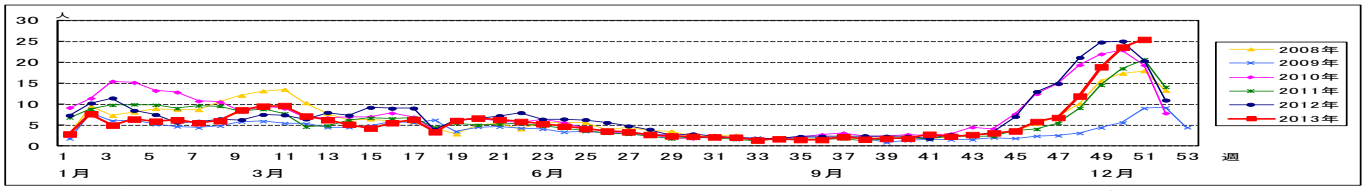




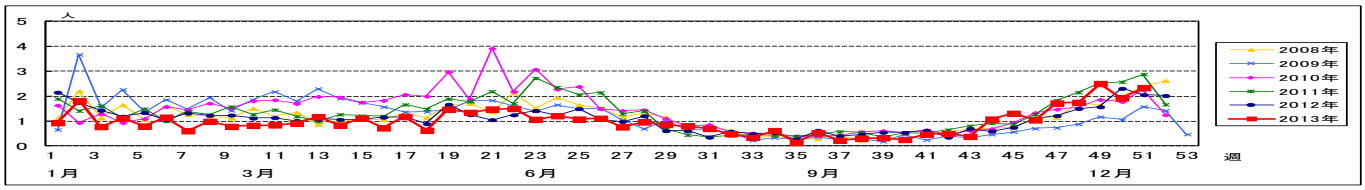
4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市全体で第 51 週 1.72 と漸増傾向が続いています。

5 **感染性胃腸炎**:市全体で第 51 週 25.51 と、2012 年第 50 週 25.11 を上回り、過去 5 年間と比較して最も報告が多くなっています。区別でも 16 区で警報レベル(警報発令基準値:定点あたり 20.00 以上)となっています。例年冬期を中心に流行する疾患であり、今後の注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市感染性胃腸炎臨時情報(衛生研究所)



6 **水痘**:市全体で第 51 週 2.34 と報告が増加しており、瀬谷区 11.50 と警報レベル(警報発令基準値:7.00 以上)、旭区 4.83、都筑区 4.33 では注意報レベル(注意報発令基準値 4.00 以上)となっています。



7 **性感染症**:11 月は、性器クラミジア感染症は男性が 24 件、女性が 16 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 9 件、女性が 5 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 6 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 0 件でした。

8 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 48 週 1.25、第 49 週 0.75、第 50 週 0.33、第 51 週 0.00 となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 50 週に 1 件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

9 **基幹定点月報**:11 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 3 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 2 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件の報告がありました。薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

感染症に気をつけよう！

平成 25 年
【1 月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コ メ ン ト　【 】は解説している既刊号
感染性胃腸炎	◎	→	12 月初旬の警報発令後も流行が続いています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。【12 月号】
インフルエンザ	◎	↗	全国に次いで 12 月下旬に流行期に入りました。下段で解説しています。
風しん	●	→	12 月以降も成人男性を中心に流行しています。先天性風しん症候群を防ぐためにも、予防接種を受けましょう。【8 月号】
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	●	⇨	11 月頃からの増加傾向が続いています。瀬谷区では警報レベルであり、注意が必要です。
咽頭結膜熱（プール熱）	●	⇨	例年、夏に流行しますが、この冬は例年に比べて報告数が多くなっており、注意が必要です。
RS ウイルス感染症	●	⇨	11 月末頃には減少していましたが、再び増加傾向に転じており、注意が必要です。【10 月号】
マイコプラズマ肺炎	●	→	全国的に流行しており、市内でもまだ報告が多いです。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。【11 月号】

◎流行　●やや流行　↗増加　⇨やや増加　→横ばい

今、気をつけたい感染症 ＝ インフルエンザ

◆ インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感や関節痛などで、通常の風邪とは異なります。例年、1～2 月に流行のピークがあり、学校等では集団発生もみられます。特に、高齢者・小児・妊婦やぜん息などの持病のある方では、重症になりやすく注意が必要です。早めの受診を心がけましょう。

◆ 患者の咳で飛び散ったしぶき（飛沫）や鼻水には、ウイルスが含まれています。そのため、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。また、飛沫で汚染されたものを触った手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。

◆ 感染を避けるには、手洗い・うがい・マスクの着用が大事です。患者となったら、他の人にうつさないように、マスクを着けるなどして飛沫が飛び散るのを防ぐ、咳エチケットを守りましょう。

◆ 熱が下がった後も、2 日程度は他の人にうつす場合があります。症状が改善してからも、2 日ほどは学校等を休んで療養することが望ましいです。

◆ 予防接種も有効で、発症する可能性を減らし、もし発症しても重症化を防ぎます。効果は接種して 2 週間程度で現れ、5 ヶ月程度持続します。接種をお考えの方は、かかりつけ医にご相談されて、できるだけ早い時期に済ませてください。

この資料は、横浜市感染症発生動向調査委員会報告 12 月期の市民向け版です。ホームページの感染症発生状況や啓発用パンフレットもご覧ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成 25 年
【2月号】

横浜市内の感染症流行状況

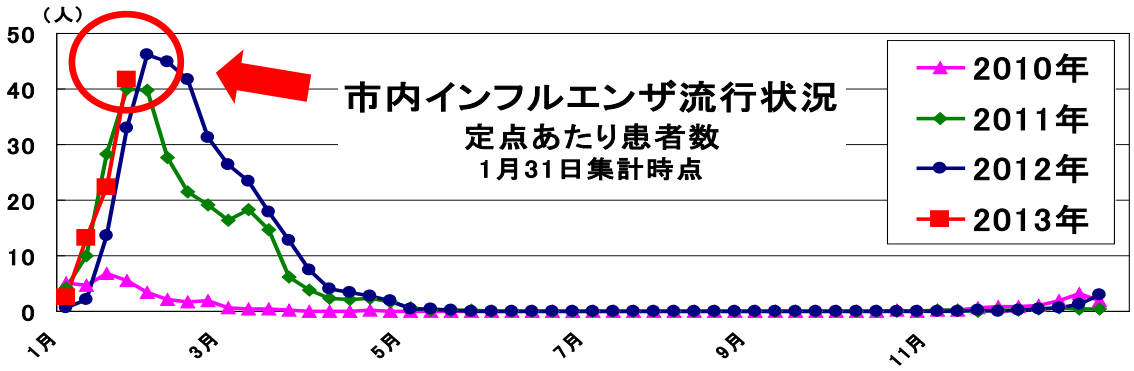
感染症	流行状況		コ メ ン ト　【 】は解説している既刊号
インフルエンザ	◎	↗	報告数が急増し、1 月下旬に警報が発令されました。学級閉鎖も急激に増えています。下段の解説をご覧ください。
風しん	●	→	1 月以降も成人男性を中心に流行しています。先天性風しん症候群を防ぐためにも、予防接種を受けましょう。【8 月号】
マイコプラズマ肺炎	●	→	報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。【11 月号】

◎流行　●やや流行　↗増加　→横ばい

今、気をつけたい感染症 ＝ インフルエンザ

◆ インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感や関節痛などで、風邪とは異なります。A 型・B 型などの種類があり、一度かかった人が、同じシーズン中に別の型にかかる場合もあります。例年、1～2 月に流行のピークがあり、学校等では集団発生もみられます。

◆ 特に、高齢者・小児・妊婦やぜん息などの持病のある方では、重症になりやすく注意が必要です。自己判断せずに早めに受診しましょう。



◆ 患者の咳で飛び散るしぶき（飛沫）や鼻水には、ウイルスが含まれています。そのため、飛沫を含む空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。また、飛沫で汚染された物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。

◆ 感染を避けるには、手洗い・うがい・マスクの着用が大事です。患者となったら、他の人にうつさないように咳エチケットを守りましょう。

◆ 抗インフルエンザ薬を使い解熱しても、他の人にうつすことがあります。発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日（幼児は 3 日）を経過するまでは、学校等は休みましょう。

◆ 予防接種も有効で、発症する可能性を減らし、もし発症しても重症化を防ぎます。

この資料は、横浜市感染症発生動向調査委員会報告 1 月期の市民向け版です。ホームページの感染症発生状況や啓発用パンフレットもご覧ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成 25 年
【3月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コ メ ン ト　【 】は解説している既刊号
インフルエンザ	◎	↘	市全体では落ち着いて来ましたが、今も警報や注意報レベルの区があり、引き続き注意が必要です。【1 月号】【2 月号】
風しん	●	→	2 月以降も流行が続いています。下段の解説を参考にして、該当する方は主治医に相談し、予防接種を受けましょう。
マイコプラズマ肺炎	●	→	報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。【11 月号】

◎流行　●やや流行　→横ばい　↘減少

今、気をつけたい感染症 ＝ 風しん

◆ 風しんウイルスの感染が原因で、主な症状は発疹・発熱・リンパ節のはれです。小児では通常あまり重症にはなりませんが、妊婦（特に妊娠初期）が感染すると、白内障・心疾患・難聴などを持った、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

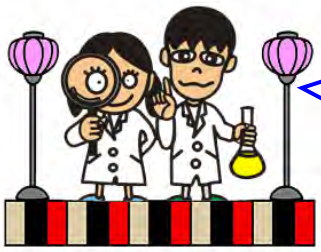
◆ 昨年の【8 月号】で取り上げましたが、現在も全国的に流行が続いており、国が注意を呼びかけています。首都圏の報告数が特に多く、横浜市内でも昨年 6 月以降流行が続いています。流行の中心は、風しんの定期予防接種が開始された当時、接種対象ではなかった 30～40 代を中心とした成人男性です。詳しくは横浜市感染症臨時情報をご覧ください。

◆ 流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐためには、予防接種が重要です。特に次の①②③に当たる方は、主治医に相談し予防接種を受けましょう。ただし、妊婦は風しんの予防接種を受けられません。また、接種後2ヶ月間は避妊が必要になります。

① 妊婦の夫、子どもその他の同居家族
② 10 代後半から 40 代の女性
③ 産褥（さんじょく）早期の女性

◆ なお、次の④⑤⑥の方は、定期予防接種として麻しん・風しん混合（MR）ワクチンを無料で接種できます。

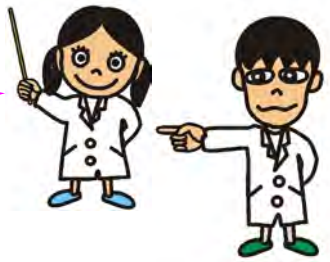
④ 第 1 期 → 1 歳以上 2 歳未満
⑤ 第 2 期 → 5 歳から 7 歳未満で小学校入学前の 1 年間
⑥ 第 3 期および第 4 期 → 中学 1 年生相当と高校 3 年生相当
（接種を 1 回しか受けていない方で、平成 25 年 3 月末までに限ります。）



この資料は、横浜市感染症発生動向調査委員会報告 2 月期の市民向け版です。
ホームページの感染症発生状況や啓発用パンフレットもご覧ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！



平成 25 年
【4月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント　【 】は解説している既刊号
風しん	◎	↗	3 月以降も流行が続いています。下段の解説を参考にして、特に、該当する方は主治医に相談し、予防接種を受けましょう。
マイコプラズマ肺炎	●	→	報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。【11 月号】

◎流行　●やや流行　↗増加　→横ばい

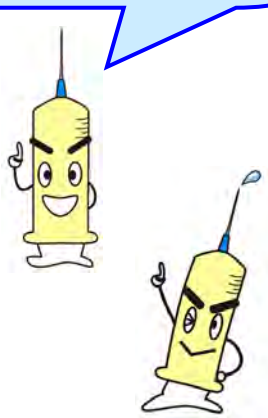
今、気をつけたい感染症 ＝ 風しん

◆ 成人男性は予防接種を受けましょう！

◆ 横浜市内で風しんが非常に流行しています。風しんは妊婦（特に妊娠初期）が感染すると、白内障・心疾患・難聴などを持った、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

◆ 予防のためには女性だけでなく、流行の主体である 20～40 代男性の予防接種が重要です。麻しん予防にも役立つ麻しん・風しん混合（MR）ワクチンをお勧めします。

詳しくは横浜市感染症臨時情報をご覧ください。



◆ 予防接種を受けるためには？

◆ 接種の実施状況や費用（有料）を、医療機関にお問い合わせいただくことが必要です。

◆ 成人の麻しん・風しん混合（MR）ワクチンは小児と同じものです。小児の定期予防接種を実施している予防接種協力医療機関に、成人へのワクチン接種実施についてお問い合わせください。

この資料は、横浜市感染症発生動向調査委員会報告 3 月期の市民向け版です。ホームページの感染症発生状況や啓発用パンフレットもご覧ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成 25 年
【5月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コ メ ン ト　【 】は解説している既刊号
風しん	◎	↗	4 月以降も流行が拡大しています。下段の解説を参考にして、該当する方は主治医に相談し、予防接種を受けましょう。
マイコプラズマ肺炎	●	→	報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。【11 月号】

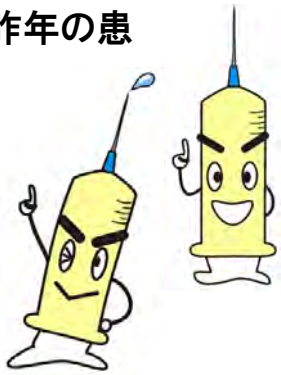
◎流行　●やや流行　↗増加　→横ばい

今、気をつけたい感染症　＝　風しん

詳しくは横浜市感染症臨時情報をご覧ください。

◆ 予防接種の助成が始まりました！

◆ 横浜市内で風しんの流行がさらに広がっています。今年はすでに、昨年の患者数の2倍以上に達しています。



◆ 風しんは妊婦（特に妊娠初期）が感染すると、白内障・心疾患・難聴などをもった、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

◆ 予防のためには女性だけでなく、流行の主体である 20～40 代男性の予防接種が重要です。麻しん予防にも役立つ麻しん・風しん混合（MR）ワクチンをお勧めしています。

◆ 自己負担 3,000 円で接種できます！

◆ 横浜市では緊急対策を実施しています。

実施期間：　平成 25 年 4 月 22 日から 9 月 30 日まで

対象者：19 歳以上の横浜市民で「妊娠を予定している女性」「妊娠している女性の夫」

◆ 詳しくは、保健所ホームページ「緊急風しん対策について」をご覧ください。

この資料は、横浜市感染症発生動向調査委員会報告 4 月期の市民向け版です。ホームページの感染症発生状況や啓発用パンフレットもご利用ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

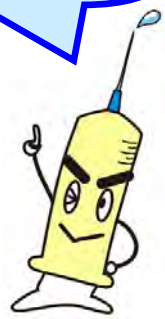
平成 25 年
【6 月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コ メ ン ト　【 】は解説している既刊号
風しん	◎ 流行	→ 横ばい	5 月以降も流行が継続しています。下段の解説を参考にして、該当する方は主治医に相談し、予防接種を受けましょう。

今、気をつけたい感染症 ＝ 風しん

詳しくは横浜市感染症臨時情報をご覧ください。



◆ 予防接種が助成されます！

- 横浜市内で風しんの流行が続いています。今年はすでに、昨年の総患者数の 3.5 倍を超えました。
- 風しんは妊婦（特に妊娠初期）が感染すると、白内障・心疾患・難聴などをもった、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。市内では報告はありませんが、全国では昨年 6 月からの流行以降 10 人が報告されています。（平成 22 年は報告は無く、23 年は 1 人でした。）
- 周囲の皆さんがワクチンを接種することが、女性と赤ちゃんを守ることになります。特に、流行の中心である 20～40 代男性の予防接種が重要です。麻しん予防にも役立つ麻しん・風しん混合（MR）ワクチンをお勧めしています。

◆ 自己負担 3,000 円で接種できます！

- 横浜市では緊急対策を実施しています。
  実施期間： 9 月 30 日まで
  対象者：19 歳以上の横浜市民で
  「妊娠を予定・希望している女性」「妊娠している女性の夫」
- 詳しくは、保健所ホームページ「緊急風しん対策について」をご覧ください。

この資料は、横浜市感染症発生動向調査委員会報告 5 月期の市民向け版です。ホームページの感染症発生状況や啓発用パンフレットもご利用ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成25年
【7月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント
風しん	◎ 流行	→ 横ばい	6月以降も流行が継続しています。以下の解説を参考にして、該当する方は主治医に相談し予防接種を受けましょう。

今、気をつけたい感染症　＝　風しん

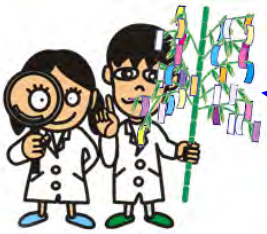
詳しくは横浜市感染症臨時情報をご覧ください。

◆ 先天性風しん症候群を予防しましょう！

- 横浜市内で風しんの流行が続いています。昨年の総患者数は 113 人でしたが、今年はすでに 500 人を超えました。
- 風しんは妊婦（特に妊娠初期）が感染すると、白内障・心疾患・難聴などをもった、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。市内では報告はありませんが、全国では昨年 6 月からの流行以降 11 人が報告されています。（平成 22 年は報告は無く、23 年は 1 人でした。）
- 周囲の皆さんがワクチンを接種することが、女性と赤ちゃんを守ることになります。特に、流行の中心である 20～40 代男性の予防接種が重要です。麻しん予防にも役立つ麻しん・風しん混合（MR）ワクチンをお勧めしています。

◆ 自己負担 3,000 円で接種できます！

- 横浜市は緊急対策として予防接種費用を助成しています。
  実施期間：　9月30日まで
  対象者：19歳以上の横浜市民で
  「妊娠を予定・希望している女性」「妊娠している女性の夫」
- 詳しくは、保健所ホームページ「緊急風しん対策について」をご覧ください。



この資料は、横浜市感染症発生動向調査委員会報告6月期の市民向け版です。ホームページの感染症発生状況や啓発用パンフレットもご利用ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成25年
【8月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント　　【　】は解説付き既刊号
手足口病（てあしくちびょう）	◎ 流行	↗ 増加	7月上旬から市全体で警報レベルです。現在も患者報告数の急増が続いており、特に1～2歳児で多く報告されています。下の解説をご覧ください。
風しん	◎ 流行	→ 横ばい	例年より患者が多い状況が続いており、全国では先天性風しん症候群も発生しています。主治医に相談し予防接種を受けましょう。横浜市は接種費用を助成しています。　【7月号】

今、気をつけたい感染症 ⇒ 手足口病

- ウイルスの感染によって起こります。乳幼児に多くみられ、夏に流行します。大人でもかかることがあります。
- 軽い発熱の後、手足や口の粘膜に発疹や水泡ができるのが特徴です。約 2/3 の人では熱が出ません。ほとんどは1週間程度で自然に治りますが、ごくまれに髄膜炎・脳炎などの重い合併症が起きる場合もあります。
- 咳のしぶきや便等から感染し、ワクチンは無いので、予防には手洗いが重要です。患者の便からはウイルスが長い期間排泄され、3～5 週間も続きます。そのため、小さいお子様が感染した時には、おしめを替えた際の手洗いをしっかり行いましょう。
- 「学校において予防すべき感染症」には含まれていませんが、登校・登園については、主治医に相談しましょう。

海外旅行先での感染症

- 夏休み中は、毎年、海外で感染症にかかる例が増加します。渡航先での感染症にも注意が必要です。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成25年
【9月号】

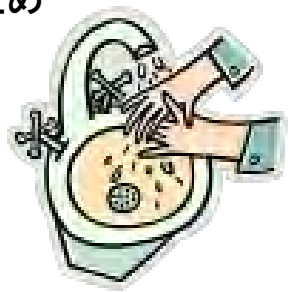
横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント　　【　】は解説付き既刊号
腸管出血性大腸菌感染症	◎ 流行	↗ 増加	8 月下旬の 1 週間で、過去 5 年間の同時期平均の約 3 倍が報告されています。例年これからの時期も流行がみられるので、注意が必要です。下の解説をご覧ください。
手足口病（てあしくちびょう）	◎ 流行	→ 横ばい	流行のピークは過ぎましたが、市全体では警報レベルが続いています。予防には手洗いが重要です。乳幼児では、おしめを替えた際もしっかり手を洗いましょう。【8月号】

今、気をつけたい感染症 ⇒ 腸管出血性大腸菌感染症

- O157(ｵｰｲﾁｺﾞﾅﾅ)などの病原性大腸菌に汚染された物を口にすることが原因です。焼肉による感染が有名です。
- 感染力が強く、2～14 日と長い潜伏期間をおいて腹痛と下痢が何回も起き、さらに、血便が出ることがあります。重症化すると溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などになります。特に、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では注意が必要です。
- 加熱（75℃で 1 分以上）すれば、O157 は死にます。肉は中心部までしっかり火を通しましょう。

- O157 は牛等の腸内に存在し、新鮮な肉も汚染されている場合があります。野菜などの食品をよく洗い、焼肉を食べる際には生肉を取るはしと食べるはしを区別しましょう。
- 感染した家族から、うつる例もあります。人から人への感染を防ぐために、正しい手洗いも大切です。



- 症状が出た時には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早目に医療機関を受診しましょう。詳しくは、「O157 に注意しましょう !」をご覧ください。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成25年
【10月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント　　【　】は解説付き既刊号
腸管出血性大腸菌感染症	流行	横ばい	8 月の報告数は過去 5 年間の平均を超えましたが、9 月はこの平均と同程度です。例年これからの季節も流行するので、食品の加熱・手洗いを十分に行い予防しましょう。　【9月号】
手足口病（てあしくちびょう）	やや流行	横ばい	市全体では流行のピークは過ぎましたが、区によってはまだ報告が多い状況が続いています。乳幼児では、おしめを替えた際もしっかり手を洗いましょう。　【8月号】

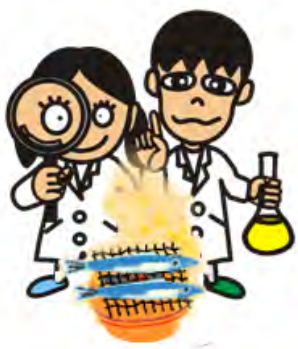
今、気をつけたい感染症 ⇒ RS ウイルス感染症

◆ 市全体で報告数がやや増加傾向にあります。昔から、冬場の風邪のひとつとして知られている感染症です。

◆ 小さな子供では、鼻水から始まり、発熱・咳が続きます。ほとんどは 1～2 週間程度で治ってきますが、乳幼児や免疫力が弱まっている人では重症化しやすいです。入院が必要になる場合もあり、注意が必要です。また、一生の間に何回もかかります。

◆ 感染の仕方は、他の多くの風邪と同様です。患者の咳で生じた飛沫（しぶき）を吸い込んだり、患者の呼吸器からの分泌物に汚染された手指や物品を介した接触で、RS（アールエス）ウイルスが目・のど・鼻の粘膜に付着することで感染します。

◆ そのため自分が感染しないためにも、他の人を感染させないためにも、予防には「正しい手洗い」が最も大切です。



横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成25年
【11月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　　【　】は解説付き既刊号
腸管出血性大腸菌感染症	流行	横ばい	8･9･10 月と報告数が例年より多い状況が続いているので、引き続き注意が必要です。肉など食品の加熱(75℃で 1 分間以上)･手洗いを十分に行い予防しましょう。【9 月号】
RS ウイルス感染症	やや流行	やや増加	市全体で増える傾向です。寒い季節に流行する風邪の一つですが、乳幼児などは重症になることもあるので、注意しましょう。予防には手洗いが最も大切です。【10 月号】

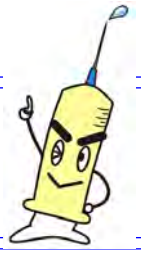
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感(けんたいかん)や関節痛などで、普通の風邪とは違います。例年、1～2 月に流行のピークがあり、学校等では集団発生も起きます。特に、高齢者･小児･妊婦や、ぜん息などの持病があると、重くなりやすく注意が必要です。

患者の咳で飛び散ったしぶき(飛沫(ひまつ))や鼻水には、ウイルスが含まれているので、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。飛沫で汚れた物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。

感染を避けるためには、手洗い･うがいが大事です。患者になったら他の人にうつさないように、マスクを着けるなど飛沫が飛び散ることを防ぐ咳エチケットを守りましょう。

抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。症状が出てから 5 日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後 2 日間(幼児は 3 日間)は、学校等を休みましょう。



ワクチンも有効で発症の可能性を減らし、発症したとしても重症化を防ぎます。効果は接種して 2 週間位で現れ、5 ヶ月程度続きます。予防接種をお考えであれば、かかりつけ医に相談し、できるだけ早く済ませましょう。

横浜市衛生研究所　感染症･疫学情報課　【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

平成25年
【12月号】

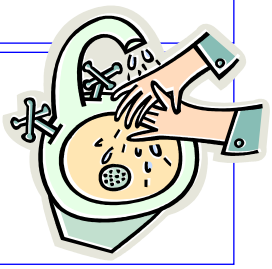
横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　　【　】は解説付き既刊号
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	散発	横ばい	流行の目安を超えた区もあります。本格的な流行に備え、手洗い・うがい・咳エチケットを守りましょう。【11 月号】
RS ｳｲﾙｽ感染症	やや流行	横ばい	市全体で多い状況が続いています。寒い季節に流行する風邪の一つです。予防には手洗いが最も大切です。【10 月号】
感染性胃腸炎	やや流行	増加	11 月中旬から市全体で増加傾向です。例年、冬を中心に流行します。下の解説を参考にして、予防しましょう。
水痘（水ぼうそう）	やや流行	やや増加	市全体で増加しており、警報・注意報レベルの区もあります。例年、年末にかけて増加します。予防接種が有効です。

今、気をつけたい感染症 感染性胃腸炎

ノロウイルスなどの感染が原因で、主な症状は下痢・腹痛・吐き気・嘔吐（おうと）です。例年、冬に増加し、保育園等での集団発生も多いです。通常、2～3 日で回復しますが、乳幼児や高齢者では重症になることがあり、注意が必要です。

ウイルスを含んだ便や吐いた物から、口を介して感染します。そのため、予防には食事や調理の前、トイレの後などの手洗いや、汚物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。消毒には塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）が有効です。



患者さんの便や吐いた物を処理する時は、使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着け、終えたら石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。ノロウイルスは乾燥すると空気中にただよい易く、口に入って感染する場合があるので、処理の際には換気も大切です。

食品の調理では、中心部の温度 85～90℃で 90 秒以上の加熱が必要です。塩素系漂白剤が使えない物でも、よく下洗いしてから、熱湯やスチームアイロンなどの蒸気を用いて、この条件で加熱すれば消毒できます。

症状が良くなってからも、長いと1か月程度は、便の中にウイルスが出ていることがあるため、手洗いを続けましょう。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課　【横浜市感染症情報センター】

横浜市感染症発生動向調査事業概要
平成 25 年 (2013 年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症･疫学情報課
平成 26 年 12 月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可